

SUNALLOMER CSR REPORT

2024

サンアロマーCSRレポート2024



サンアロマー株式会社

SunAllomer Vision Statement

サンアロマー株式会社は、製品やサービスの差別化により、長期的な利潤の確保と、持続的な成長を実現します。

具体的には調達・研究開発・製造・物流・販売等の各業務分野において、独自の特長・ノウハウを発揮し、それを積極的に高めていきます。

これにより、お客様に支持される“Different(iated)”なPPサプライヤーとなるよう努め、健康・安全・環境の改善に引き続き取り組みながら、株主、従業員そして当社の事業を育んでいる社会の期待に応えます。

Excellent Company

社会に有益であり、適正な収益に裏付けられた継続的发展をする会社！

- ・ 健康・安全・環境(HSE)の改善に取り組む会社
- ・ 品質の良い製品と優れたサービスを提供する会社
- ・ いかなる環境においても、確実に利潤を上げる会社
- ・ 創造性を発揮し、新しい製品や仕組みを産み出す会社
- ・ 現状に満足せず、常にチャレンジする会社
- ・ 社員が誇りと自信を持ち積極的に行動する会社
- ・ 社員全員が経営者の視点で行動する会社
- ・ 高い倫理観を持って行動する会社

CONTENTS

サンアロマーについて 04

- 04 トップメッセージ
- 05 事業紹介
- 05 サンアロマーの取り扱い商品
- 08 サンアロマーの研究開発
- 09 企業倫理・コンプライアンス
- 10 コーポレート・ガバナンス(主な会議体など)

CSR 11

- 11 CSRマネジメント
- 14 ステークホルダーとのかかわり
- 17 レスポンシブル・ケア
- 18 マネジメントシステム
- 19 環境への取り組み
- 22 環境保全
- 29 保安防災
- 34 労働安全衛生
- 41 BCP(事業継続計画)の取り組み
- 43 品質保証と製品安全管理
- 46 取引先とのかかわり
- 47 人権・労働慣行

会社情報 51

- 51 会社情報
- 53 財務・非財務データ

編集方針

サンアロマーは当社のCSRの考え方や具体的な活動についてステークホルダーの皆様に情報共有する目的で、サンアロマーCSRレポートを発行しています。当レポートでは、環境や社会への配慮をご紹介します。

作成部署

サンアロマー株式会社 環境安全・CSR推進室

Tel 03-5781-5617

ホームページ <https://www.sunallomer.co.jp/>

報告媒体について

本冊子にはサンアロマーの概要と2023年の主なトピックスを中心に掲載しています。

ウェブサイトには本冊子のPDF版を掲載しています。

報告対象期間

原則として2023年1月～12月までを対象としています。2024年1月以降の情報も一部含まれます。

「年」と記載があるものは2023年1月～12月、「年度」と記載があるものは2023年4月～2024年3月の範囲を対象としています。

報告対象組織

本文中の記述についてはサンアロマー株式会社を対象としています。

発行

2024年8月

参考としたガイドライン

日化協 レスポンシブル・ケアコード Ver.No:2.0

サンアロマーについて

トップメッセージ

“化学の力で社会を変える”

SunAllomer Ltd.
SOMETHING NEW!

代表取締役社長
高岡 博



サンアロマー株式会社は、私たちの生活に欠かせないプラスチック「ポリプロピレン」の専門メーカーです。

私たちは、レゾナックグループの一員としてこれからも環境に配慮した魅力あるユニークな製品とプロフェッショナルなサービスを提供し、お客様との「協創」を通じて社会の持続的発展に貢献します。「安全」「品質」に対して真摯に取り組み、情熱をもって「挑戦」をしていきます。



事業紹介

最も成長が期待される汎用樹脂 ポリプロピレン(PP)の開発・製造・販売を行う

研究・技術開発

製造

販売



サンアロマー株式会社は株式会社レゾナック、ENEOS株式会社を株主とする合併会社で、汎用樹脂ポリプロピレンの開発・製造・販売を行っています。

サンアロマーは、他社との差別化を図りながら、独自の特徴・ノウハウを高め、お客様に支持されるサプライヤーとなることを目指します。

サンアロマーの取り扱い商品

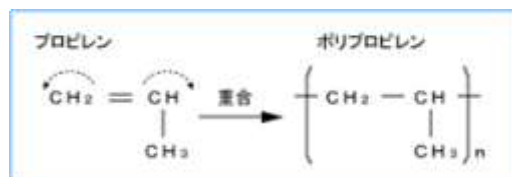
ポリプロピレンとは？

ポリプロピレンはプラスチックの中でも比較的安価でもっとも軽く(密度0.9g/cm³)、高融点(160℃以上)で成形加工が容易なため、自動車部品、家庭電化製品、食品包装フィルム、玩具、雑貨などの幅広い分野で需要があります。日本では1年間に250万トン、世界では7,000

万トン以上が使用されています。また、リサイクル性が高く、燃やしても有毒ガスを発生しないという環境に優しい性質も併せ持ち、使用用途が拡大している樹脂の一つです。

ポリプロピレンの構造

ポリプロピレンはプロピレンの付加重合によって製造されます。重合にはZiegler-Natta触媒が用いられています。



ポリプロピレンの一般的な特徴

- ・剛性と耐衝撃性のバランスが優れている
- ・耐熱性が優れている (融点160℃以上)
- ・密度が低い (0.9g/cm³)
- ・耐薬品性が良好である
- ・湿度水分の影響をほとんど受けない
- ・広範囲な加工適性を有する
 - ・・・中空成形、射出成形、押出成形等
- ・環境応力亀裂(ESCR)に対する耐性が優れる
- ・良好な外観を有する
- ・リサイクル性が高い
- ・燃やしても有害ガスを発生しない



幅広い用途が期待できるサンアロマーのポリプロピレン

ポリプロピレンは一般的に、ホモポリマー、ランダムコポリマー、ブロックコポリマーに分類されます。それぞれ特徴と用途は異なりますが、比較的安価で軽く、成形加工が容易なため、自動車部品や家庭電化製品、食品包装フィルム、玩具、雑貨といった幅広い分野で需要があります。

サンアロマーでは成形品の軽量化・低コスト化に寄与する剛性・耐衝撃性のバランスに優れたゴム成分含有量の高いポリプロピレンを開発し、食品包装分野や自動車分野向けで、多様化するお客様のニーズに応える製品を提供しています。



用 途

- | | | |
|-----------|----------|------------------|
| ・食品用トレイ | ・透明折箱 | ・自動車部品 |
| ・食品包装フィルム | ・透明ボトル | ・プラスチックコンテナ・パレット |
| ・梱包用延伸テープ | ・クリーニング袋 | ・家庭電化製品 |
| ・飲料用カップ | ・不織布 | ・家庭用雑貨 |

プラスチック製品の薄肉化・軽量化に向けた高機能ポリプロピレンの開発

サンアロマーでは食品包装、食品容器、自動車部品の軽量化・薄肉化が可能なポリプロピレン製品の開発に力を入れており、下記のようにプラスチック使用量の削減に貢献しています。自動車部品の軽量化は、ガソリン燃

費の向上、CO₂排出量の削減への貢献にもつながっております。

サンアロマーはこれからも、環境に配慮した製品開発に取り組んで参ります。

- ・フィルム分野 / コンビニエンスストア向けおにぎり包装 10%の薄肉化
- ・食品容器 / 食品トレイ 5%の薄肉化、ドリンクカップ、ラーメン容器等 25%の軽量化
- ・自動車部品 / デッキサイド、ドアパネル 20%の軽量化、サービスホールドカバー PVC代替による軽量化



サンアロマーのポリプロピレン樹脂

サンアロマーは、用途に応じて、様々なポリプロピレンを製造しています。製品の情報は、ホームページの製品一覧よりご覧いただけます。

<https://www.sunallomer.co.jp/products/lineup.html>

ここでは、高付加価値製品の一つであるポリプロピレン「クオリア®」についてご紹介します。

クオリア®とは？

クオリア®は、ゴム含有量がブロックコポリマーに比べても極めて高く、高剛性・高衝撃性に優れている上に、従来のブロックコポリマーでは劣っていた透明性をランダムコポリマー並みにまで向上させることに成功しています。特に食品包装分野・自動車分野向けで、多様化するお客様のニーズに応えることができ、例えば食品用途では、冷凍から電子レンジまで対応できる高透明容器を、このクオリア®で新たに提案することができます。さらには、お客様の成型加工品での軽量化・減容化を図れるといった特長を保有しています。



クオリア®の用途例

- ・タッパー容器や柔軟蓋材
- ・冷凍：アイスクリーム容器／ソフトクリームのトップカバー／ケーキのドームカバー／アイスクーキのカットケース
- ・冷蔵：肉類のブリスターパック／チーズや調味料のケース

クオリア®製品の特徴

特徴1 高い透明性を実現

従来の製品に比べより高い透明性を実現。この強みを生かし食品包装分野・自動車分野を中心に幅広い用途での利用を追求していきます。

特徴2 耐寒性耐熱性の高い構造

クオリア®は急激な温度変化に耐え耐寒性と耐熱性を兼ね備えているため、冷凍庫から出した容器をそのまま電子レンジでも使うことができます。マイナス30℃から160℃までの広い温度範囲に対応します。

特徴3 高剛性・耐寒衝撃性に優れる

透明性とのバランスを保持しながら高い剛性を実現。従来製品に比べ、冷凍環境で割れ難い耐寒衝撃性を保ちます。



特徴4 低減された白化・破損性

白化・破損性が低減され、傷が目立ちにくく、ヒンジ蓋等の用途に最適です。マイナス20℃落球テストにて、クオリア®は従来の製品に比べ、ほとんど破損が見られないことがわかります(右図;落球テスト結果)。



特徴5 高光沢で発色性に優れる

顔料を添加した際、深い位置に存在する顔料粒子にも光が反射し、深みのある色を出すことができます。また、顔料粒子に反射する光が多くなることから、同じ色目で顔料を減らすことが可能となり、コストダウンにつなげることができます。

クオリア®は「環境に優しい」高ゴム含有ポリプロピレン

クオリア®はゴム含有量が高く、コストパフォーマンス、リサイクル性に優れます。また環境問題で課題となる軽量化を実現し、LCAの点からも今後成長が期待できます。

LCAとは？

Life Cycle Assessmentの略です。製品開発、原材料、製造、販売、物流、消費、廃棄・リサイクルを含めた投入資源、環境負荷やそれらによる地球や生態系への影響を定量的に評価する手法のこと。

サンアロマーの研究開発



研究開発の基本姿勢

サンアロマーはエクセレント・カンパニーというビジョンを掲げ、「独自の企業文化」で「高付加価値の創造」と「社会との調和」に取り組んでいます。

長年にわたり蓄積された経験とノウハウを活用し、お客様にご満足いただける製品を提供していきます。



研究開発の目指す姿

独自の特長・ノウハウを高めていくことによって、お客様に支持されるサプライヤーになることを目指します。



高付加価値の創造

新しい用途開拓をお客様とともに行うことで、高機能製品、高付加価値製品の開発を進め、期待を超えるような新たな価値を社会やお客様に提供する製品を開発します。

社会との調和

CO₂排出量の削減や省エネルギー対策等、化学企業として地球環境に配慮した取り組みを進め、社会との調和を目指していきます。



法令遵守への取り組み

企業として社会からの信頼を得るためには、まず公正性、誠実性が求められます。

サンアロマーは、法令違反の通報を受け付ける社内・

社外窓口(企業倫理ホットライン)の設置やコンプライアンスに関する各種教育などを行うことで、企業倫理の遵守の徹底に努めています。

企業倫理ホットライン

法令遵守の取り組みとして、サンアロマーは法令違反の通報を受け付ける社内窓口を設置しており、全従業員、および主な協力会社従業員が利用できるようになっています。また、外部の相談窓口として会社の契約する弁護士を指定し、運営しています。社内での法令違反の

恐れがある事柄について従業員および主な協力会社従業員は、誰でもこの窓口を通じ問題提起をすることができ、会社はそれに対して対応をとる仕組みになっています。

コンプライアンス教育(企業倫理月間)

毎年レゾナックグループの企業倫理月間活動に、全従業員が参加しています。2023年はレゾナックグループのeラーニング「私たちの行動規範の教育」の受講と、「人権に関する意識調査」を行いました。今回の人権に関す

る意識調査を2024年も継続して実施する予定で、コンプライアンス教育を実施するとともに、その効果も継続して確認していきます。その他、次のようなコンプライアンスの徹底に関する取り組みを継続して行っています。

- ・レゾナックグループ社長メッセージとサンアロマー CCQOメッセージの送付
- ・レゾナックグループ eラーニング「私たちの行動規範の教育」の受講
- ・レゾナックグループ「人権に関する意識調査」の実施

CCQOとは？

CCQO: Chief Compliance Quality Officerの略で「最高コンプライアンス品質責任者」のこと。

新入社員への教育

新たに入社、転入した従業員へは、教育ガイダンスに従い、eラーニングの必須受講項目を定めて教育を実施し

ています。2023年度入社、転入者全員の教育を完了しています。

職場トレーニング

四半期毎に職場内でコンプライアンスに関するディスカッションを行っています。当日参加できなかった従業員は、後日自習および課題を実施することにより、全従業員がトレーニングに参加し、コンプライアンスに対する

理解を深めるようにしています。今後も教育レベルの維持・向上に努めて参ります。2023年に実施した内容は以下のとおりです。

- ・第1四半期:「私たちの行動規範」の通読と当規範に則り行動する旨の誓約書への署名
- ・第2四半期:「コンプライアンス事例課題」の実施とその職場ディスカッション
- ・第3四半期:eラーニング「カスタマーハラスメント防止」の受講とその職場ディスカッション
- ・第4四半期:eラーニング「私たちの行動規範の教育」の受講、「人権に関する意識調査」の実施

コーポレート・ガバナンス(主な会議体など)

Management Committee(MC)

社長決裁事項の諮問機関であり、会社の施策や重要事項の審議および本部間の情報共有を目的としています。

コンプライアンス委員会

広く社会から信頼される企業活動を遂行するためのコンプライアンス体制を構築することを目的とし、全従業員が「倫理に基づく行動」と「法の遵守」を基本におき、良識ある公正な行動が取れるように、基本方針や年度計画を策定し、実施しています。また、コンプライアンスに関する通報・相談を受け付ける「企業倫理ホットライン」窓口を設置し運営を行っています。

レスポンシブル・ケア(RC)委員会

「レスポンシブル・ケアに関する行動指針」を定め、「健康・安全・環境」の継続的な改善を目的に、年度目標の審議・決定を行い、本社および各事業所で施策の推進を行っています。

省エネ委員会

省エネルギー活動を推進することを目的に、全社が省エネルギーに配慮した事業活動を行うための体制とその運営を行い、施策の推進を行っています。

安全衛生委員会

安全衛生管理を適切に推進するため、作業安全の確保および職場衛生の向上並びに従業員の健康増進を図るとともに、災害および事故を未然に防止することを目的に、各事業所に安全衛生委員会を設置し、審議、施策の推進を行っています。

内部監査

社長直轄の内部監査体制を構築し、自社の事業活動に対して統合内部監査を実施しています。また、各事業所においては認証を受けている各種マネジメントシステムにおける内部監査を実施しております。これらは、当社のサナロマー内部監査実施基準に基づいて年間監査計画を作成し、内部監査を実施した後、その結果を各マネジメントシステムにおけるトップマネジメント、及び必要に応じ取締役会、監査役に報告しています。さらに、会計監査人及び監査役とは、それぞれの監査の独立性に配慮しつつ、年間監査計画、監査結果等につき定期的な報告会を通じて意見交換を行う等、相互に連携を図っています。



CSR責任者メッセージ

サンアロマーは、社会に有益であり、適正な収益に裏付けられた継続的发展をする会社という理念のもと、50項目のKPI*を経営指標として設定しています。50項目のうち、特に重要な指標である、「安全」、「品質」、「環境」、「コンプライアンス」に対しては、重大なインシデントをゼロとすべくGoalZeroというスローガンを掲げ重点管理の対象としています。

「安全」については、事業のすべてに対して優先される事項と位置づけ、以前親会社であったライオンデルバゼル社(世界最大級のポリオレフィンカンパニー)グループの一員として培った世界基準の安全マネジメントシステムをベースとし、現親会社である株式会社レゾナック・ENEOS株式会社の安全基準を融合した独自の安全マネジメントシステムを構築しています。また設備自体の安全性確保やマネジメントシステムの運用に加え、従業員の行動特性にも着目した安全活動を採用し、さらに高い安全への取り組みを着実に進めています。また、職場環境の改善や時間外労働の抑制を推進し、働き方改革を進めることでより働きやすい労働環境を提供し、労働衛生への配慮を強化しています。

「品質」に対しては、「サンアロマーの事業においての本質である」と位置づけ、品質も第一とする経営を行っております。その実現のために、社長を組織のトップとした品質マネジメントシステムを構築し、全社を対象組織とするISO9001の認証を取得しております。このシステムにおいて、品質は製造部門だけではなく、製品の開発、原材料の管理、販売、物流を含めた、すべての事業活動にわたるものであると定義しています。品質を通じたお

客様の満足度を高めるために、測定データの自動取得システムを導入し、偽装・改ざんなどの品質不正を徹底的に排除する仕組みを構築するなど、品質に対する投資を積極的に進めています。

「環境」面への配慮として、不要な反応副産物がなく有害な廃棄物が生成しない、環境負荷の少ないポリプロピレン製造プロセスを採用しております。発生する産業廃棄物は、業界の中でも非常に少ない排出レベルを維持しています。また、製造・物流において発生するCO₂の削減にも積極的に取り組み、地球温暖化の防止に努めております。近年、話題となっているプラスチックごみの問題、特に、海洋プラスチックごみの問題は、「プラスチック循環利用協会」および2018年9月に発足した「海洋プラスチック問題対応協議会」の会員企業として、プラスチックごみの削減に向けて対応策をまとめていきます。

また、「コンプライアンス」遵守を徹底した経営を進めています。経営理念を具体化する上で従業員が考え行動するための指針としてレゾナックグループが制定した「私たちの行動規範」に基づき誠実に行動し、事業活動を通じて社会に貢献することに努めて参ります。これを真に「私たちの」といえる段階まで理解し行動するために、オリジナルの教育用資料を作成し、年4回の教育を全社員対象に行い、コンプライアンス意識の向上に努めています。また、コンプライアンス経営を実現するために、全従業員、協力会社の社員を対象に社内、及び社外の内部通報窓口を設置し、社内での不正を発見し対処する体制を構築しています。

CSR本部長 兼 CCQO 中島 治継

*KPI:Key Performance Indicator の略で、企業目標の達成度を評価するための主要業績評価指標

CSR推進体制

サンアロマーでは、CSR本部を設置しCSR方針に従いCSR活動を推進しています。具体的には、CSRおよび内部統制に関するリスク管理やマネジメントシステムの

統括を行い、レスポンシブル・ケア活動、コンプライアンスの推進および品質保証と製品安全管理を中心に活動しています。

CSR方針

事業活動を通じたSDGs課題解決への貢献と
「私たちの行動規範」に基づく全社員の行動により
すべてのステークホルダーにご満足いただける
社会貢献企業を目指します

【重要テーマ】

『安全とコンプライアンスを基盤としたリスクマネジメントの深化と
CSRコミュニケーションをもとにした機会の創出による
経済的価値・社会的価値の創造』

- ・技術・製品・サービスの有効活用による、豊かさと持続性の調和する社会創造への貢献
- ・持続可能な社会のため、また製造業の使命としての環境課題への取り組み
- ・国際社会と当社グループの持続可能な成長に資する人づくり

EcoVadis社のサステナビリティ評価で5年連続『GOLD』を獲得



サンアロマー株式会社は、EcoVadis社(本社:フランス)のサステナビリティ(持続可能性)評価において、5年連続で『GOLD』を獲得いたしました。

EcoVadis社のサステナビリティ評価は、「環境」、「労働と人権」、「倫理」、「持続可能な資材調達」の4つの分野について、国際的なCSR規格に基づき包括的に評価するもので、EcoVadis社のデータベース登録企業数は125,000社以上にのぼり、世界

180カ国以上、200業種以上で採用されております。この中で当社は、「環境」、「労働と人権」、「持続可能な資材調達」分野での取り組みが高水準であると評価され、総合得点においては所属業種における評価対象企業の上位5%に入る高い評価を受けました。

サンアロマーは、レゾナックグループの一員としてこれからも環境に配慮した魅力あるユニークな製品とプロフェッショナルなサービスを提供し、お客様との「協創」を通じて社会の持続的発展に貢献します。



株式会社レゾナックは、国連グローバル・コンパクトが定める「人権の保護」、「不当な労働の排除」、「環境への対応」、「腐敗の防止」に関わる4分野10原則に賛同しており、「人権を尊重した経営」、「環境問題への取り組み」、「社会との共創による持続可能な社会への貢献」、「製品・サービスに関わる安全と安心の確保」、「公正で誠実な取引活動」、「公平で公正な雇用・労働」を「私たちの行動規範」で定めています。

その内容は、2030年までに、全ての人に普遍的に適用されるSDGsの、あらゆる形態の貧困に終止符を打

ち、不平等と闘い、気候変動に対処しながら、「誰も置き去りにしない」ことを確保するという考え方にも一致しています。

レゾナックグループであるサンアロマーもこの活動に準拠し、行動規範とSDGsそしてマテリアリティを関連付けることで、サンアロマーの事業を推進します。

以下にSDGsに貢献するサンアロマーのポリプロピレン製品、ポリプロピレンコンパウンド製品、その使用例をご紹介します。

SDGs	貢献分野	私たちの生活とのつながり
5 ジェンダー平等を 実現しよう 	家庭用品	紙おむつ、レトルト食品包装、電子レンジ対応容器などの材料に使用され、家事労働の軽減に貢献しています。
12 つくる責任、 つかう責任 	省エネルギー	自動車用内外装材に使われています。軽量化により、燃費向上に貢献しています。
13 気候変動に 具体的な対策を 	自動車等軽量化	自動車用内外装材に使われています。軽量化でCO ₂ 発生量を削減しています。

SDGsとは？

SDGsは、Sustainable Development Goals「持続可能な開発目標」の略称で、2015年9月の国連サミットで採択された「持続可能な開発のための2030アジェンダ」文書の中核を成す「持続可能な開発目標」を指します。

主な内容は17のゴールとその169のターゲットから構成され、2030年までに持続可能でよりよい世界を目指す国際目標です。

「国連グローバル・コンパクト」とは？

国連と民間(企業・団体)が手を結び、健全なグローバル社会を築くための世界最大のサステナビリティイニシアチブです。

企業・団体が社会の良き一員として行動し、持続可能な成長を実現するための世界的な枠組み作りに参加する自発的な取り組みです。

ステークホルダーとのかかわり



社会との対話

一般社団法人日本化学工業協会レスポンシブル・ケア委員会の加盟企業は、化学企業の環境保全などの取り組みを地域の皆様によく理解していただき、交流を深める

ために、「レスポンシブル・ケア地域対話」を地区ごとに開催しています。サンアロマーは、大分地区並びに川崎地区で参加しています。

大分工場

大分工場では、隔年で開催される大分地区「レスポンシブル・ケア地域対話」に参加していますが、地域対話を実施しない年についても地域住民の方との意見交換会（地域対話ミニ集会）に参加しています。

2024年は、2月に地域対話が開催されました。

また、大分工場ではコンビナート周辺の清掃活動を実施しています。



【2024年2月 大分地区「レスポンシブル・ケア地域対話」の様子】



【2023年10月 大分工場周辺道路清掃活動の様子】

川崎工場

川崎工場も隔年で開催される川崎地区「レスポンスブル・ケア地域対話」へ参加しており、2024年1月に開催されました。



【2024年1月 川崎地区「レスポンスブル・ケア地域対話」の様子】

川崎工場は、2016年8月より、環境保安技術の向上を目的に地域企業の有志会社で組織した研究会である「川崎コンビナート環境保安技術研究会」に参加し活動し

2024年は、地域住民の皆様からの川崎地区企業へのご質問やご要望を拝聴し、次回2026年の地域対話へ反映していきます。



ております。また、地域の清掃活動として工場周辺道路の歩道のゴミ拾いを行っています。



【2023年7月 川崎工場周辺道路清掃活動の様子】



【2023年12月 川崎工場周辺道路清掃活動の様子】

研究開発本部

研究開発本部では地域の清掃活動を行っています。



【2023年11月 研究開発本部での近隣歩道の清掃活動の様子】

2023年は感染防止対策を講じた上で、実施しました。



CSRレポートの発行

2017年からレスポンシブル・ケアレポートに代わり、すべてのステークスホルダーの皆様に向けた「CSRレポート」を発行しています。

社員および家族

社内クラブ活動

スポーツや文化活動などを通じて、社内の親睦を図り、コミュニケーション促進のため社内クラブ活動を補助しています。2023年、サンアロマーFC(フットボールク

ラブ)は新型コロナウイルス感染に気を付けながら月1回程度のペースで活動を実施しています。また、ゴルフ部も月1回のペースで活動を行っています。



【サンアロマーFCの活動の様子】



【ゴルフ部の活動の様子】

レスポンシブル・ケア



サンアロマーは、一般社団法人日本化学工業協会のレスポンシブル・ケア委員会に株式会社レゾナックのレスポンシブル・ケア活動関連企業として登録しており、レスポンシブル・ケア活動を柱とする環境・安全活動の推進を行っています。

具体的には、レゾナックグループと一体となってレスポンシブル・ケア活動に取り組んでおり、活動の実行に当たっては、レゾナックグループの「レスポンシブル・ケアに関する行動指針」に従い、年度目標を立てて活動し、評価を実施しています。

レスポンシブル・ケア(RC)とは？

世界の化学業界では化学物質を製造し、または取り扱う事業者が、化学物質の開発から製造、物流、使用、最終消費を経て廃棄に至るすべての過程において、自主的に「環境・安全・健康」を確保して活動の成果を公表し、社会との対話、コミュニケーションを行う活動をしており、この活動を「レスポンシブル・ケア」と呼んでいます。

レゾナックグループの「レスポンシブル・ケアに関する行動指針」をご紹介します。

レスポンシブル・ケアに関する行動指針

(レゾナックグループ行動指針)

- 1、製品の全ライフサイクルにおいて、安全および健康を確保し環境を保護する観点から、事業活動を継続的に見直すとともに改善に努める。
- 2、生産活動において、従来型の環境保全はもとより、原料転換、省エネルギー、廃棄物の減量・再資源化、化学物質の排出量削減等を推進し、地球環境との調和による持続的発展に努める。
- 3、新製品開発、新規事業、設備の新設・増設・改造において、安全と健康の確保および環境の保護に配慮する。
- 4、安全と健康の確保および環境の保護に寄与する研究開発、技術開発を推進し、代替製品・新製品の事業化の推進を図る。
- 5、製品や取り扱い物質の安全・健康・環境面の影響に関するリスク評価およびリスク管理の充実を図るとともに、安全な使用と取り扱いに関する情報を、ステークホルダーに提供する。
- 6、海外事業、技術移転、製品の国際取引において、安全と健康の確保および環境の保護に配慮する。
- 7、国際規則および国内関係法令等を遵守するとともに、国際関係機関、国内外の行政機関等への協力に努める。
- 8、安全と健康の確保および環境の保護に関する諸活動に積極的に参加するとともに、社会との対話を深め、理解と信頼の向上に努める。

マネジメントシステム

レスポンシブル・ケアを推進するための体制として規程類の整備、組織の構築を実施しています。

推進体制は下記の通りです。

レスポンシブル・ケア推進体制



事業所体制 事業所：大分工場、川崎工場、研究開発本部



統合内部監査

サンアロマーでは、定期的に、統合内部監査としてレスポンシブル・ケアに関する事項も含め内部監査を本社、各事業所に対して実施しています。

監査は、マネジメントに関する書類監査、従業員に対す

るヒアリングを中心に実施されています。

レスポンシブル・ケア委員会では、その結果が報告され、指摘事項・対策内容の確認やそれらの対応状況をチェックしています。

株式会社レゾナックによる環境安全監査

大分工場にて、株式会社レゾナックによる環境安全監査を受審しました。

これは、定期的に行われるもので、重点項目を定め、レゾナックグループ関係会社からも監査員として参加し、様々な視点から環境・安全・衛生に関する監査を行うものです。

2023年度は、実態に合わせたマニュアルの策定やマ

ネジメントレビューにおけるトップマネジメントのリーダーシップが評価されました。一方、取扱物質の管理や製造現場における表示等に未だ改善する余地がある点が指摘されました。これらについては速やかに是正措置を実施しました。

サンアロマーは、今後もこの監査活動に参加し、安全文化の醸成に努めて参ります。

品質・環境・労働安全衛生マネジメントシステム

品質マネジメントシステム(ISO9001)の認証は、大分工場、川崎工場、本社・支店・研究開発本部も含め全社で取得しています。

環境マネジメントシステム(ISO14001)の認証は、大分工場、川崎工場です。それぞれ取得しております。

労働安全衛生マネジメントシステム(ISO45001)は、大分工場(2011年にOHSAS18001取得、2019年に移行)、川崎工場(2018年)です。それぞれ取得しております。

これらのシステムに基づき、内部監査を定期的実施し、計画(Plan)、実行(Do)、評価(Check)、改善(Act)のPDCAサイクルの実施状況、システムの有効性の確認も行っています。



環境への取り組み



サンアロマーが製造・販売するポリプロピレンは、私たちの生活に密着した製品に原料として多く用いられ、豊かで快適な生活に貢献しています。

しかし、その製造過程で周囲の環境に悪影響を与えたり、あるいは役目を終えた最終製品が廃棄物として放置されたりして環境問題を起こしては、地球・人々の環境にとってポリプロピレンの有益性は意味のないものとなっ

てしまいます。

サンアロマーではこのようなことがないように、環境の保護と、市民および従業員の安全および健康の確保を前提として事業活動を進める事が、社会的責務であり使命であるとの基本理念に基づき、下記の項目に重点を置いて取り組みを実施しています。

環境月間

国連では、6月5日を「世界環境デー」と定めており、日本では「環境基本法」(平成5年)で「環境の日」を定めています。サンアロマーにおいても環境について関心と理解を深めるために6月を環境月間と定めて社長メッセー

ジを配信し、また環境に関する各種施策の進捗確認を実施する等、環境を守ることの大事さを再認識する機会としています。

環境月間 社長メッセージ(2023年6月)

「プラスチック」と「環境」に関する報道がされない日はありません。

プラスチックは「カーボンニュートラル(CN)」、「海洋汚染・ゴミ問題」、等々「負」のイメージで捉えている事例もあれば、自動車の「軽量化」、衛生材料・容器の「安全有用性」、等々「正」のイメージで現代社会に不可欠な素材として期待されてもいます。

プラスチックをとりまく様々な環境問題に対応していくには、プラスチックの資源循環を加速し、循環型社会へ移行していくことが必要だと言われています。

プラスチックは、「選んで・減らして・リサイクル」といった標語まで作られるようになっていきます。今後は環境負荷の低減をひとつのキーワードとして世の中に提供していく、それができない企業は淘汰をされていく、といった時代が来るかもしれません。

サンアロマーは『化学(PP)の力で社会を変える』というパーパスのもと、プラスチック製造・販売のプロの集団です。

プロだからこそ「環境」に責任を持ち、人々の「生活」をより便利にしていくことが求められます。我々のやらなければならない取り組みはたくさんあります。

6月は環境月間です。

世界各国において6月5日を「環境の日」と定めて色々な行事が行われています。日本においては日本各地のランドマーク施設のライトアップカラーを「グリーン」にするそうです。

日本各地の素敵な「グリーン」の夜景を眺めながら環境について私たちが出来ることを考えてみましょう。

サンアロマー株式会社 代表取締役社長 高岡 博

エネルギー削減

省エネルギー対策を通し、資源の有効利用、地球温暖化防止に努めています。(22～23ページの「CO₂排出量

データ」、「工場における省エネルギーの取り組み」、「物流における省エネルギーの取り組み」に詳細記載)

土壌汚染防止

大分・川崎両工場、研究開発本部は、市が指定する土壌汚染対策法に基づく指定地域に立地していますが、該当する特定有害物質は使用しておりません。施設撤去や土壌改良時には、土壌汚染対策法および自治体の条例に則った、届け出、調査や措置を実施しております。あわせ

て施設の床面、付帯配管、防液堤、排水溝管理によって、漏洩による土壌汚染の未然防止に努めております。

尚、2023年度は土壌に関する異常は発生しておりません。

VOC削減

川崎工場では製造段階でのVOC(揮発性有機化合物)の大気への放出を抑制する為、2020年10月にVOC回

収設備を設置しました。大分工場については対策済みです。(24ページのVOCの排出に詳細記載)

ゼロ・エミッション

ポリプロピレン製造の過程や研究活動にともない発生する廃棄物については、分別を徹底し、再利用・再資源化に努め、ゼロ・エミッションの達成を目標としてその管理を行っています。

また、一般社団法人プラスチック循環利用協会に加盟し、その活動に参画しています。プラスチック循環利用協会は、廃プラスチックの循環的な利用に関する調査研究等を行い、プラスチックのライフサイクル全体での環境負

荷の低減に資するとともにプラスチック関連産業の健全な発展を図り、もって持続的発展が可能な社会の構築に寄与することを目的に活動しています。私たちはポリプロピレンの最終製品の廃棄・再利用に関しても、責任の一端を担っています。

(25ページの産業廃棄物のゼロ・エミッションに詳細記載)

ゼロ・エミッションとは？

サンアロマーは、廃棄物の最終埋立処分量が発生量の0.5%以下の達成を目標としてその管理を行っています。

再生紙の利用促進

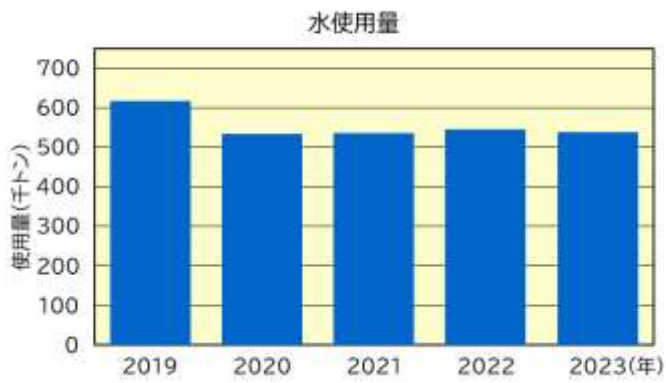
リサイクル推進の観点から、全社で再生紙の利用促進に取り組んでいます。

川崎工場はグリーン購入法施行と同時にコピー紙を再

生紙(古紙配合率100%)に切り替えました。研究開発本部と大分工場は2019年半ば、本社は2020年2月から再生紙を利用しています。

水資源の利用

サンアロマーの2023年度の水使用量は合計538.8千トンで、内訳は、工業用水531.5千トン、上水道水7.2千トン、地下水0.0千トンとなっており、それと同等量の



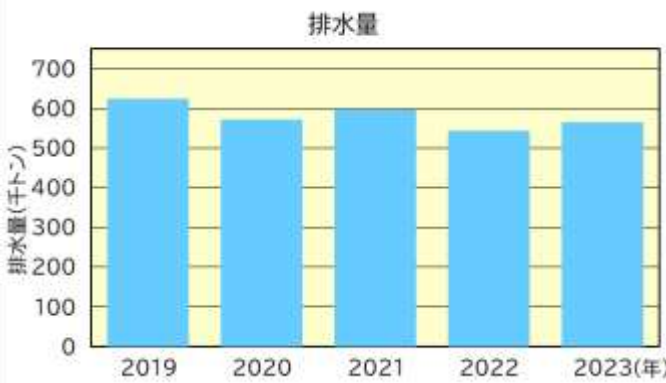
製造プロセスには循環式冷却水系を導入しており、水をリサイクルすることで水使用量を大幅に削減しております。

排水に関しては、大分・川崎両工場および研究開発本部は親会社のコンビナートに属しており、親会社の事業所とともに国、県等の排水基準を遵守すべく社内基準を設定し、水質の管理を実施しています。具体例として、大分工場は、コンビナート内の各社とともに水質環境負荷低減に努めており、排水量、pH、TOC*、浮遊物質を管理しています。また、川崎工場においても排水量、COD*、全窒素、全リン、浮遊物質等の管理を行っております。

両工場共、排水施設の適切な運転管理を実施すること

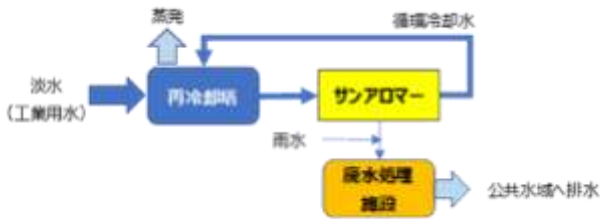
TOC*とは？
TOCは、Total Organic Carbon「全有機体炭素」の略称で、水中の有機物の総量を有機炭素の量で示したものであり、有機物による水の汚濁を判定する代表的な指標の一つ。

排水を行っております。また、循環冷却水を27,502千トン使用しました。



で排水基準を遵守し、また水の循環利用を最大限活用することで排水量の削減に取り組んでおります。下図に現状の取り組みを示します。

尚、2023年度の排水に関する異常は発生しておりません。



【両工場 水の循環利用の取り組みの図】

COD*とは？
CODは、Chemical Oxygen Demand「化学的酸素要求量」の略称で、排水中の有機物による汚れを示す指標。水中の有機物を酸化するために必要な酸素量を示したものの。

環境保全

CO₂ 排出量データ

サンアロマーは省エネ法(エネルギーの使用の合理化及び非化石エネルギーへの転換等に関する法律)の特定事業所として、また温対法(地球温暖化対策の推進に関する法律)の特定排出者として、これら法に基づき、エネルギーの使用量、省エネ計画の策定、および温室効果ガスの排出量を算定し、国に報告しております。更に、2050年カーボンニュートラルを目標にCO₂排出量削減の取り組みを進めています。

サンアロマーが2023年に工場で使用したエネルギーから換算したCO₂排出量(左下図)と排出量原単位(右下図)を示します。CO₂排出量における、大分工場と川崎工場の差は製品生産量の差異によるものです。

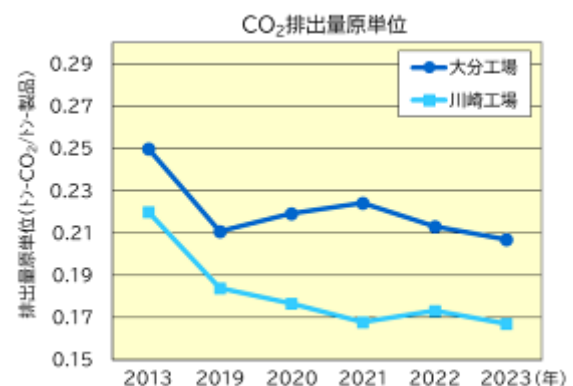
2023年の大分工場は、計画停止工事や生産調整停

止の影響により製品生産量が減少したこと、およびCO₂排出係数(電力会社が電力を作り出す際にどれだけのCO₂を排出したかを推し計る指数)も低下した効果から、CO₂排出量は改善しており、またCO₂排出量原単位においても改善が見られました。川崎工場は、製品生産量が増加したものの、CO₂排出係数が低下した効果からCO₂排出量は前年同等、CO₂排出量原単位は改善がみられました。

サンアロマーは、生産プロセスの見直しや省エネ活動の推進、設備改造などにより、温室効果ガスの排出量削減・維持に引き続き取り組んで参ります。

CO₂排出量原単位とは？

サンアロマーでは製品のポリプロピレンを1トン生産するときの二酸化炭素の排出量(トン)としている。



工場における省エネルギーの取り組み



CO₂などの温室効果ガスの発生量を抑えること、ひいては環境保全、資源の節約のためには、工場での使用エネルギーを削減することが必要です。

サンアロマーでは、大分工場、川崎工場が「第一種エネルギー管理指定工場」となっており、従前より省エネルギー活動の推進を行っています。

左図に2013年を1.0としたときのエネルギー原単位

エネルギー原単位とは？

サンアロマーでは製品のポリプロピレンを一定量生産する際に消費するエネルギーの量としている。

の推移を示しました。大分工場は、大規模な計画停止工事が無かったことから前年比では、エネルギー原単位は改善しました。川崎工場においても、計画停止工事や生産調整停止によるエネルギー原単位悪化要因があったものの、製品生産量が増加したことから、前年比でエネルギー原単位は改善しました。

尚、2023年からは改正省エネ法によるエネルギー原単位の算出方法変更に伴い、エネルギー原単位の値が低くなっております(図中、「新基準」参照)。

今後も引き続き運転の信頼性向上、設備改善など、省エネルギーの推進に取り組みます。

物流における省エネルギーの取り組み

サンアロマーは、特定荷主としてエネルギーの使用に係る原単位を年平均1%削減することを目指し、省エネルギーの取り組みを進めてきました。結果は下記のとおりとなります。

2023年の原単位は前年比96.8%と良化しました。エネルギー算定の方法を、当局の推奨するエンジン区分などを加味した詳細な方法に改善し、燃費が効率的な輸

送機関使用の効果を織り込んだ結果です。引き続き配送距離の短縮などの効率輸送の検討も進めて参ります。

特定荷主とは？
省エネ法で規定された輸送量の多い荷主のこと。
年に一回物流部門の省エネ対策とその期待効果についての計画を国に提出するとともに、エネルギー使用量、エネルギー使用原単位、省エネ取り組み状況、CO₂排出量を報告することが義務づけられています。

項目/年度	2019年	2020年	2021年	2022年	2023年
エネルギーの使用に係る原単位 ※(kl/トン)	0.0148	0.0152	0.015	0.0156	0.0151
前年度比 (%)	108.0	102.7	98.7	104.0	96.8

※ 輸送のためのエネルギー使用量(原油換算)(kl)/販売量(トン)

クロス配送低減による環境負荷軽減

滋賀県を境界線に日本を東西の配送エリアに分けたとき、この境界線をまたぐ配送をクロス配送と定義し、クロス配送を低減するよう努力をしています。

2015年以降は、大分工場のみで生産していた製品を川崎工場でも生産する技術開発を行い、共通生産品の種類を増やしたことで、同一品質の製品をよりお客様に近

い工場から出荷・配送することができるようになりました。これにより工場からの製品配送距離が短縮され、結果的にトラック配送における環境負荷を低減することができました。今後も小口配送の削減を更に進めること、および両工場での共通生産品を増やすことで、トラック配送における環境負荷低減を進めていきます。

九州地区の自動車産業のお客様へ大分工場(九州)から出荷

大分工場はその立地を生かし、九州地区の自動車産業のお客様のもとへ輸送効率を意識した配送計画を立案・

実行することにより、トラック配送における環境負荷を低減しています。

モーダルシフトによる輸送

国内の輸送手段をトラック輸送から、鉄道または海運に転換し、その割合を拡大することに取り組んでいます。環境負荷の低減に加え、エネルギー問題および今後の少子高齢化に伴う労働力問題の解決に資することを目的とし、2016年に現行のRORO船に加え、内航船コンテナ輸送の起用とJR鉄道の活用拡大を検討しました。2017年には今まで実施していないエリアでJR鉄道による顧客への納入を開始しましたが、経済状況などの様々

RORO船とは？

ロールオン、ロールオフの略称で、トラックやトレーラーの貨物をそのまま運べる貨物専用の船のことで、一度に多く運べ、効率が良い、エネルギーが少なく済むなどの利点があります。

な新たな課題により拡大が難しくなっている状況です。

今後も機会を逃さず継続して取り組み、環境負荷低減に配慮したRORO船での輸送を主体に、CO₂排出量の削減に努めて参ります。



ランニング包材回収率の向上(パレット回収率98.5%の達成)

2013年から、包材管理システム(RFIDシステム)を導入し、製品運搬用の輸送容器(パレット、フレキシブルコンテナバッグ)の回収強化および製品の誤出荷防止に取り組んでいます。

このシステムにより、パレット回収率は、2021年は96.8%、2022年は98.4%、2023年は98.5%を達成し、フレキシブルコンテナバッグについては、2021年は100.7%、2022年は100.7%、2023年は100.5%を達成しています。

RFIDシステム導入前のパレットについては、紛失・未回収により、不足したパレットを追加購入していました

が、これを大幅に削減することにより再使用化が促されました。フレキシブルコンテナバッグについても、回収・洗浄・点検を行い、再使用推進に努めています。なお、再使用できないパレットについては、粉碎しリサイクルしております。

今後も引き続き、資源の循環利用による環境負荷の低減を推進して参ります。

RFIDとは？

Radio Frequency Identificationの略です。サンアロマーでは、無線通信により情報の読み書きを行う非接触型のタグ(RFIDタグ)をパレット、フレキシブルコンテナに装着し、個体識別管理を行っています。

VOCの排出

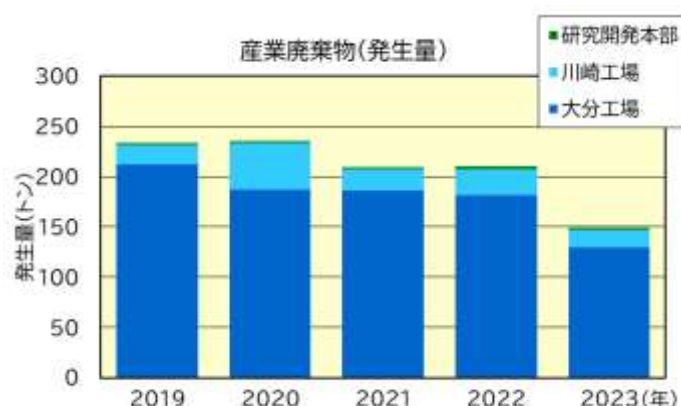
VOC(揮発性有機化合物)は、大気中に排出されると大気汚染の原因となり、人の健康へ影響を与える恐れがあります。サンアロマーにおけるVOCの大気への排出のほとんどは、川崎工場の設備から製造時に発生するノルマルヘキサンです。その排出量は右図の通りです。

2020年10月に抜本的な改善として設備改造を実施し、VOC回収設備を設置したことにより、2020年11月以降はVOCの排出が大きく減少しましたが、2022年の一時期、このVOC回収設備の不具合により大気中への排出量が増加してしまいました。現在は、故障の原因を解決し、VOC回収設備は安定運転を継続しています。



産業廃棄物の発生量

産業廃棄物の発生量の推移を右図に示します。発生量については、年ごとに増減がありますが、大分・川崎両工場、研究開発本部共に、分別収集により、産業廃棄物自体の発生抑制に努めています。大分工場では、廃プラスチックの有効利用化を進めた結果、産業廃棄物の発生量が減少しています。川崎工場は、昨年のような大規模な装置の清掃工事が無かったことから、排出量は低下しました。引き続き、産業廃棄物の有効利用化を進め、発生量の削減を進めていきます。



産業廃棄物のゼロ・エミッション

産業廃棄物の最終埋立処分率の推移を右図に示します。

産業廃棄物の最終埋立処分量は分別収集、再利用化の徹底により、5年連続して、ゼロ・エミッションを達成しています。

今後もこのレベルを維持継続するよう引き続き、きめ細かい対応をとっていきます。



SOx、NOx、ばいじん

サンアロマーではSOx(硫黄酸化物)、NOx(窒素酸化物)、ばいじんの排出はありません。

PCB管理

現在製造は中止となっているPCB(ポリ塩化ビフェニル)は、従来の変圧器、コンデンサーや安定器などに使用されていました。サンアロマーでは、更新により取り外し

た古い変圧器の絶縁油中において、PCBが含まれていることが判明し、適正に処理しました。

生物多様性保全への取り組み

サンアロマーの生物多様性の保全に関する活動は、レゾナックグループの「私たちの行動規範」の中に示されている「生物多様性保全への取り組み」に基づき、行われて

います。具体的には、排水・廃棄物・化学物質・緑化管理、地域での清掃活動への参加や省エネ・温室効果ガス削減(CO₂削減)活動を行っています。

カーボンニュートラルに向けた対応

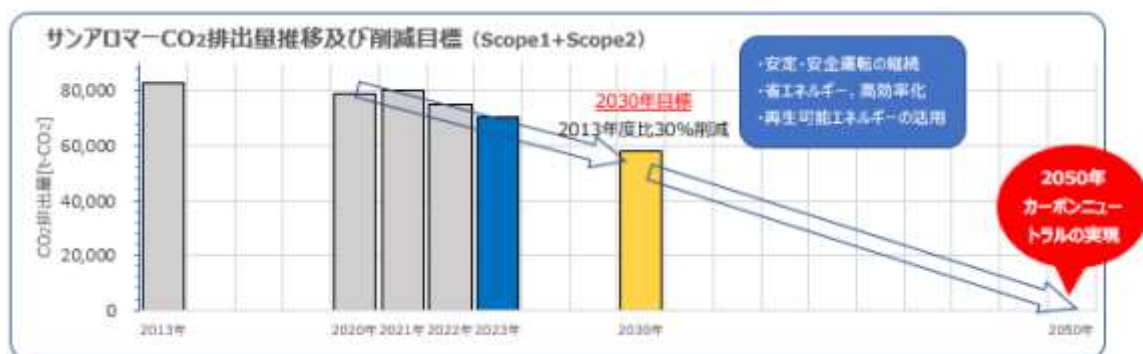
サンアロマーは、以下に示すCO₂排出削減ロードマップに基づきCO₂排出削減を目指していきます。

Scope1, Scope2について、立地するコンビナートと

協働し2050年までにカーボンニュートラルを目指します。Scope3についてもサプライチェーンからのCO₂排出量の把握、及び削減の検討を行っていきます。

サンアロマー CO₂排出量推移、及び削減ロードマップ

(Scope1, Scope2): 立地するコンビナートと協働し2050年迄にカーボンニュートラルを目指します。



(Scope3): サプライチェーンからのCO₂排出量(Scope3)削減にも取り組んでいきます。

Scope3に対しては、自社にて削減施策に取り組めるカテゴリー5(廃棄物)、カテゴリー9(下流物流)の削減を中心に取り組みを進めます。また、カテゴリー1(原材料

のLCIデータ)についてCO₂排出量を把握し、製品毎にCO₂排出量(CFP:カーボンフットプリント)が算出できる仕組みを構築します。

ISCC PLUS認証の取得

サンアロマーは、環境配慮型製品の取扱いを強化するために、2023年7月に、大分工場、川崎工場ともに、持続可能な製品の国際的認証制度の一つであるISCC PLUS (Processing Unit) 認証を取得しました。

これまで、両工場では石油由来原料のみを使用しておりましたが、原料の一部をバイオマス原料に置き換えることになり、この取り組みは、持続可能な原料の社会での実用化、カーボンニュートラルに向けた循環型社会形成につながるものです。

今回のISCC PLUS認証取得により、バイオマス原料を一部使用する製品に対して、認証制度に基づくマスバランス(物質収支)方式によって、バイオマス原料由来の持続可能特性を割り当て、販売することが可能となりました。

ISCC PLUS認証は、当社だけでなく、バリューチェーン全体におけるお客様の持続可能性の目標達成にも役立つと確信しており、継続的な取り組みを進めてまいります。

LCIデータ更新活動

サンアロマーは、一般社団法人プラスチック循環利用協会の会員となっています。

本協会の目的は、「廃プラスチックの循環的な利用に関する調査研究等を行い、プラスチックのライフサイクル全体での環境負荷の低減に資するとともにプラスチック関連産業の健全な発展を図り、もって持続的発展が可能な社会の構築に寄与する」としています。

サンアロマーはこの目的に賛同し、プラスチック循環利

用協会の会員として、近年社会的なニーズが高まっているLCI(Life Cycle Inventory)データの20年振りとなる更新活動に参加しています。

LCIデータは製品のライフサイクル(製造、使用、廃棄)の各工程で消費された資源、エネルギー量、各種環境負荷項目の排出量を定量的に評価したものであり、LCA(Life Cycle Assessment)を実施するための基礎データとなります。

危険物の取扱い

サンアロマーは、危険物の貯蔵、または取扱施設においては、消防法の技術上の基準に従い、排出源の囲い込みや装置の密封性を確実なものとするための措置を講じ、危険物の系外への漏洩防止に努めています。



【川崎工場 防液堤の様子】

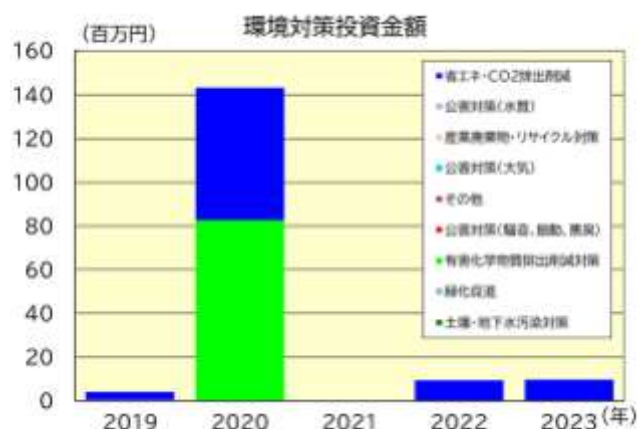
環境対策投資金額

環境改善のための投資金額(大分工場、川崎工場)の推移は右図の通りです。

主な環境対策として、2020年10月に川崎工場における大気へのVOC排出量の大幅な削減を目的に『スチーマー排出ガス処理設備』を設置しました。これにより2020年11月以降は大幅なVOCの大気排出の削減を達成しています。2023年は大分工場の環境対策投資はありませんでした。川崎工場は2022年から照明のLED化を開始しており、毎年継続して推進していきます。

また、GHG(Green House Gas:温室効果ガス)削減投資の推進のため、レゾナックグループでは2020年から設備投資に対して、社内炭素価格(ICP: Internal

Carbon Pricing)を導入しました。この制度により更なるGHG削減を進めて参ります。



環境監視

大分工場

サンアロマーの大分工場は大分石油化学コンビナート内に所在しており、各種設備を共同利用しています。本コンビナートは、サンアロマーを含めた構成各社により、排水・大気・臭気・騒音に関して、24時間常時監視が行われています。環境測定は定期的を実施しておりますが、異

常値が検知された場合は、直ちに周辺パトロールや、各プラントからの報告で状況を確認し、必要な措置を行います。また、大気中に排出されるNOx、SOxなどのばい煙をリアルタイムで測定し、これらのデータは大分市のテレメーターシステムに自動送信されています。

NOxとは？

有害大気汚染の指標。燃料や廃棄物燃焼時に空気中などの窒素が酸化して発生する。光化学スモッグの原因になるともいわれている。

SOxとは？

有害大気汚染の指標。硫黄を含む燃料を燃焼する場合に発生する。呼吸器系に影響がある。

川崎工場

サンアロマーの川崎工場はENEOS株式会社川崎製油所川崎地区(千鳥)内のコンビナートに所在しており、各種設備を共同利用しています。本コンビナートは、サンアロマーを含めた構成各社により、排水・大気に関して24時間常時監視をしており、臭気・騒音については、日々の

パトロールの他に年に一度定期測定を実施しております。もし異常が検知された場合は、直ちに状況を確認し、必要な措置を行います。また、大気中に排出されるNOx、SOxなどのばい煙をリアルタイムで測定しています。

安全についての基本理念を次のように定め、これに基づき保安確保のための諸施策を展開しています。

企業活動における安全の確保は、経営の基盤をなすものであるとともに、企業に課せられた必須かつ重大な社会的責務である。したがって、生産活動およびその他全ての活動においては、安全確保を最優先のものとして、関係する諸法規を遵守するとともに、事故・災害を未然に防止し、もって、従業員の生命ならびに生産施設を守り、地域・公共の安全を確保しなければならない。

保安管理方針

保安確保についての基本方針は前述の「レスポンシブル・ケアに関する行動指針」の通りですが、大分工場および川崎工場の「保安管理方針」をご紹介します。

大分工場保安管理方針

1. 完全無事故・無災害を目指し、安全を最優先とする。
2. 保安に関する法規制等ならびに社内基準を遵守し、保安管理レベルの向上に努める。
3. 保安管理の目標及び計画を設定し、定期的に見直し、保安管理システムの継続的改善を図る。
4. 保安に影響を与えるリスクの低減、変更管理を推進し、事故の予防に努める。
5. 保安活動を効果的に推進するため、教育・訓練を実施し、保安意識の高揚に努める。
6. 事業活動を通じて、関係官庁・地域住民とのコミュニケーションを図り、従業員・協力会社従業員と地域社会の安全を確保する。

川崎工場保安管理方針

サンアロマーの保安管理の基本方針である『レスポンシブル・ケアに関するレゾナックグループ行動指針』を踏まえ、川崎工場は、保安管理方針を定めて保安確保を徹底する。

1. 安全確保
無事故・無災害を目指し、安全を確保する
2. 関係法令、要求事項等の遵守
保安に関する関係法令、特定要求事項ならびに全社、工場で定めた規程類を遵守し保安管理レベルの向上に努める
3. リスク評価の推進ならびにリスクの低減
保安管理に影響するリスク評価およびリスク管理の充実を図り、リスク低減を積極的に進め、また、変更管理徹底により事故の未然防止、安全・安定操業に努める
4. RC活動への積極的参加ならびにシステムの継続的改善
『SUN川崎工場RC行動計画』を策定し、諸活動に積極的に参加すると共に、これを継続的に見直し、システムの改善を図る
5. 教育・訓練を通じた保安意識の向上
教育・訓練を通じ工場内の全ての就業者の保安意識の向上に努める
6. ステークホルダーとのコミュニケーションの充実
事業活動を通じて、関係諸官庁、地域住民とのコミュニケーションを図り、従業員・協力会社従業員と地域社会の安全を確保する

自主保安の推進

大分工場、川崎工場は高圧ガス保安法に基づく認定保安検査実施者および認定完成検査実施者として経済産業大臣により4年連続運転の認定を受けています。

両工場については、高圧ガス保安法に基づいた本社に

よる監査を実施し、検査管理組織および工場が経済産業大臣の定める基準に沿って保安管理システムを確実に運用しているかを確認しています。

サンアロマーの安全文化

株式会社レゾナック・ENEOS株式会社の安全基準を融合した独自の安全マネジメントシステムを構築し、高い水準を維持しています。今後も安全活動には終わりがな

いと認識し、株式会社レゾナック・ENEOS株式会社とも連携して、今後も継続して対策を進めて参ります。以下に、これまで実施した例を示します。

プラント爆発事故対策

万が一プラントで爆発事故が起きたときに備えて、爆風シミュレーションを行い、その結果に基づく対策を行っています。

大分工場の計器室の耐爆風対策

耐爆風計器室コンクリートの壁は、「400mm」の厚みがあり、また、耐爆扉も銀行の金庫の扉に匹敵する厚さとなっており、十分な強度があります。



川崎工場の計器室と事務所の耐爆風対策

従来のコンクリート建屋の周りに、耐爆風壁を設置しています。



フルハーネス型の墜落制止用器具

サンアロマーでは国内法が施行される前から、高所作業で着用する墜落制止用器具について、従来の胴ベルト型ではなく、フルハーネス型を採用しております。これは、落下時の衝撃を腹部に集中させず、体全体に分散させるもので、墜落危険場所で作業する場合は、サンアロマー従業員だけでなく、協力会社の全従業員の方々も着用しています。



【川崎工場の立体倉庫の月次点検作業時における墜落制止用器具(フルハーネス)の着用の様子】

地震・津波対策

大分工場の設備は、 $0.6 \leq I_s$ (ほぼ倒壊リスクなし) を耐震基準としており、これを満たしていない設備は、計画的に補強工事を実施しています。具体的には、製品倉庫の耐震補強の工事を実施しており、2026年完成予定です。

また、津波対策として、重要電気設備の水没を防止すべく、2022年に防潮堤の設置を完工しています。

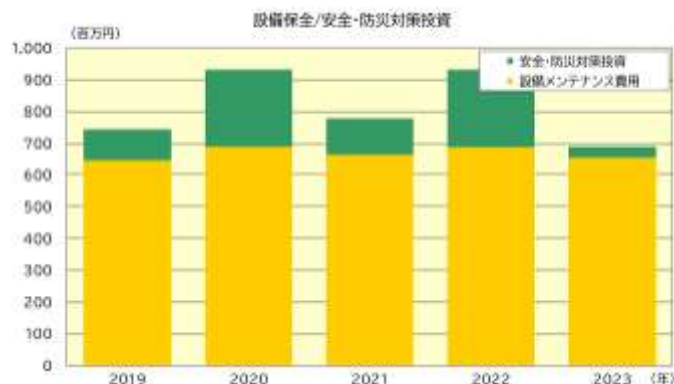


安全・防災への投資

設備・操業における安全確保のための投資を継続的に行っています。下図のように大分、川崎両工場への安全・防災対策の投資金額、設備メンテナンス費用はここ数年高いレベルで推移し、安全・防災対策投資は主に設備の老朽化・事故防止対策(爆発・火災・漏えい)に向けられています。

2023年の大分工場は、労災対策、作業環境改善を中心に設備投資を実施しました。

川崎工場では、老朽化更新を中心に設備投資を実施しました。



防災・防火訓練

各事業所では、様々な異常事態を想定し各種訓練を実施しています。

大分工場

2023年も、大分石油化学コンビナート全体で様々な想定による各種訓練が行われました。

- ・コンビナート総合防災訓練:3月、6月、11月
- ・コンビナート緊急通報訓練:5月、8月
- ・コンビナート排水トラブル訓練:6月
- ・コンビナート地震・津波避難訓練:9月

コンビナート総合災害訓練実施

大分石油化学コンビナート全体では年3回の総合防災訓練が行われています。

これはプラント災害発生時において、コンビナート非常対策組織が機能することを確認するためのものです。

大きな問題はなく終了しましたが、訓練での不具合事項等について対策を実施し、災害発生時に適切に対応できるように準備を進めています。

川崎工場

川崎工場でも、2023年も様々な異常事態を想定し、防災訓練を実施しました。

- ・放水銃訓練:6月、11月実施
- ・協力会社合同防災訓練:12月

放水訓練

2023年6月に、放水銃による放水訓練を実施しました。



【遠隔放水銃訓練の様子】



【放水銃訓練の様子】

23年11月に、ENEOS株式会社川崎製油所と合同で、放水訓練を実施しました。



【放水訓練の様子】



【放水訓練の様子】

協力会社合同防災訓練

2023年12月に、ENEOS株式会社川崎製油所と合同で、協力会社合同防災訓練を実施しました。



【総合放水訓練の様子】



【総合放水訓練の様子】

本社

本社が入居しているビル全体での防災・防火訓練に年2回(5月、11月)参加しています。5月の訓練では、非常階段を使用した避難訓練と、訓練用消火器を使用した消火活動訓練を実施し、11月はそれらに加え、訓練用AEDを使用した救命訓練に参加、実施しました。

- ・避難・消火訓練:5月
- ・避難訓練:11月



【救命訓練の様子】

労働安全衛生



安全実績

サンアロマーは、「全ての事故は避けられるものである」と信じ安全活動に取り組んでいます。

この信念の下、各事業所ではヒヤリハット活動・5S活動・危険予知活動などの日常安全活動、教育訓練、安全標語の募集など、さまざまな安全活動を実施しています。

「GoalZero」のスローガンのもと、毎年7月の「全国安全週間」には、経営会議メンバー（社長、副社長、各本

部長）の安全メッセージを電子メールで全従業員に配信、周知しています。

ヒヤリハット活動では、提出件数とともに発生したヒヤリハットに対してリスクアセスメントを行い、適正な処置や対策を講じて、リスクの軽減に努めています。

また、協力会社とも定期的に安全会議等を開催し、事故防止のための取り組み（安全監査の実施、協定書による安全管理、安全活動の規定）を推進しています。

災害記録

労働災害は、2019年の休業災害以降、2022年半ばに300万時間連続無災害を記録しましたが、2022年末に捻挫による災害が発生しました（当労災は2023年にカウントされています）。

設備災害は、2023年の工場内火災事故が1件発生しています。2023年の工場内火災事故により、関係者の皆様に多大なるご迷惑、ご心配をおかけしましたことについて、心から深くお詫び申し上げます。今後、二度とこ

のような事故を発生させないよう、十分な対策を講じてまいります。

尚、事業所別では川崎工場が2023年下期に180万時間連続無災害を記録し、次ページにある数々の表彰を受けています。

引き続き、関係会社並びに協力会社の皆様のご協力と共に全員参加の安全活動を行って参ります。

災害件数(2019～2023年)

種別/発生年	2019年	2020年	2021年	2022年	2023年
労働災害(休業)※	1	0	0	0	1
設備事故	1	1	0	0	1

(※従業員、常駐・非常駐協力会社員計)

無災害事業所認定



2023年5月に6年連続で研究開発本部が一般社団法人日本化学工業協会より、無災害事業所認定(区分-1:従業員100人未満で10年以上の無災害が対象)を受けました。

川崎工場 神奈川労働局「安全衛生表彰優良賞」受賞

川崎工場は、2023年7月に横浜第二合同庁舎(神奈川県横浜市)にて行われた神奈川労働局安全衛生表彰式において、「優良賞」を受賞しました。

これは、2014年に安全衛生に関する水準が良好で改善のための取組みが他の模範とされる「奨励賞」を受賞していますが、今回は安全衛生に関する水準が特に良好で改善のための取組みが他の模範とされる「優良賞」を受賞したものです。この様な素晴らしい賞を受賞するこ

とができたのは、協力会社の方々と従業員の安全衛生に対する意識の高さやこれまで行ってきた各種施策への真摯な取り組み姿勢の賜物だと考えています。私たちにあって今日の安全と衛生は一つの通過点でしかありません。これを将来にわたって継続して行くことが最も重要なことです。この賞に恥じることがないように引き続き安全の確保と衛生維持のために尚一層の努力をしてまいります。



【表彰式授与の様子】

神奈川労働局長安全衛生表彰とは？

神奈川県で、安全衛生に関する水準が良好で改善のための取組みが他の模範と認められる事業場、あるいは、長年にわたり地域・団体又は関係事業場の安全衛生水準の向上発展に多大な貢献をした個人に対し、贈られるものです。2023年度優良賞は神奈川全体から当社を含め6事業所が受賞となりました。

川崎工場 全国労働安全衛生週間 川崎南地区推進大会で模範事業所として紹介

川崎工場は、2023年9月に神奈川労務安全衛生協会主催で行われました、全国労働安全衛生週間川崎南地区

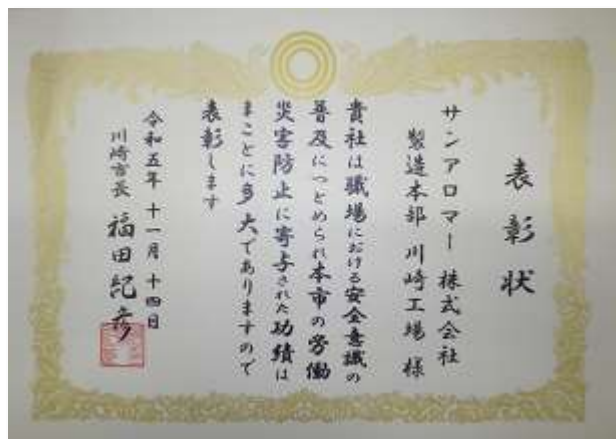
推進大会において、安全衛生に関わる取り組みが、他事業所の模範として紹介されました。



【表彰式授与の様子】

川崎工場 川崎市労働災害防止研究集会で川崎市長より「功労団体表彰」受賞

川崎工場は、2023年11月に川崎市労働災害防止研究集会において、川崎市長より「功労団体表彰」を受賞しました。



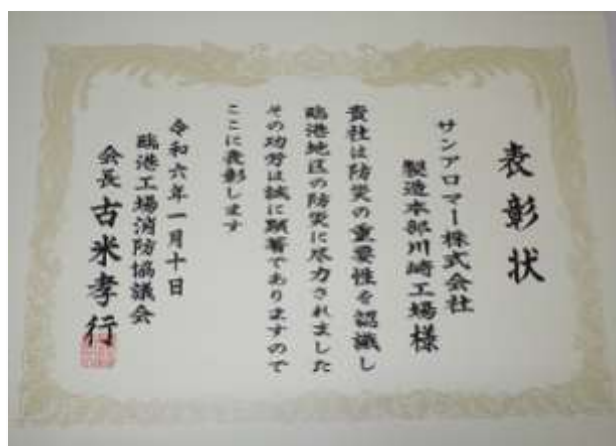
【表彰式授与の様子】

労働災害防止研究集会とは？

この集会は、川崎市における各事業所等の労働災害防止活動の促進と定着を図り、安心して働ける職場環境をつくるために、川崎市が主催し、関係行政機関、使用者団体、労働団体等が協力して開催する全国でも稀な集会で、講演会・事例発表会・表彰式を行っています。

川崎工場 臨港工場消防協議会「防災貢献優良事業所」受賞

川崎工場は、2024年1月に臨港工場消防協議会から「防災貢献優良事業所」を受賞しました。



【表彰会場の様子】

臨港工場消防協議会とは？

臨港消防署管内における工場火災を未然に防止し、斯業の健全な発展と公共の安全を確保することを目的とし、本会の目的に賛同する会社、工場をもって構成され、目的を達成するため、臨港消防署指導のもとに各種事業活動を行っています。

安全活動の紹介

各工場では、以下の安全活動を行い、労働安全衛生に努めております。

安全実技体験研修の実施

大分工場では、労働災害の“怖さ”を実際に体験してもらうため、体感教育を推進しています。株式会社レゾナック大分石油化学コンビナートで開催される安全実技体験研修に、サンアロマーの従業員も参加しています。

安全活動の表彰

川崎工場では、安全安定運転に貢献のあった安全活動の表彰を実施しています。

2023年7月と2024年1月に実施しました。



【安全表彰・ヒヤリハット表彰式の様子】



【工場長表彰式の様子】

物流における安全管理

2023年には、3PL(3rd Party Logistics)体制のもとで物流の安全管理体制の維持・向上を目的とした物流監査を、大分工場、川崎工場のそれぞれの場内倉庫および契約倉庫4ヶ所で実施しました。同年は新型コロナウイルス感染症の防止のため、物流監査チェックリストによる自主監査形式での実施となりました。契約倉庫および輸送会社におけるヒヤリハットを用いた安全管理の結果、2023年は407件のヒヤリハットが報告され、全て

に関して処置が完了しています。

さらにレゾナックグループにおける事故事例を関係する物流会社の方々と共有し水平展開することで、国内物流における事故防止に取り組んでいます。



パートナーシップ構築宣言



サンアロマーは、2022年2月に経団連会長、日商会頭、連合会長及び関係大臣（内閣府、経産省、厚労省、農水省、国交省）をメンバーとする「未来を拓くパートナーシップ構築推進会議」において創設された「パートナーシップ構築宣言」の趣旨に賛同し、当社の

サンアロマーは、2022年2月に経団連会長、日商会頭、連合会長及び関係大臣（内閣府、経産省、厚

「パートナーシップ構築宣言」を公表しました。サンアロマーは、今回の宣言の下、サプライチェーン全体での付加価値向上に努めて参ります。

「パートナーシップ構築宣言」とは？

サプライチェーンの取引先や価値創造を図る事業者の皆様との連携・共存共栄を進めることで、新たなパートナーシップを構築することを、企業の代表者の名前で宣言するものです。

イエローカード

日本化学工業協会が推進しているイエローカードについて、2019年より運用を開始しています。これは、化学物質や高圧ガス輸送時の万一の事故に備え、運転手や消防・警察などの関係者が取るべき処置を書いた緊急連絡

カードのことであり、輸送中は常時携帯するものとなっています。



「ホワイト物流」推進運動 持続可能な物流の実現に向けた自主行動宣言

ホワイト物流は、物流業界の働き方改革ともいえる運動であり、その実現には荷主のコンプライアンスが重要になっています。サンアロマーはこの運動の趣旨に賛同し、2019年9月に自主行動宣言を行い、以下のように取り組んでいます。

（取り組み方針）

事業活動に必要な物流の持続的・安定的な確保を経営課題として認識し、生産性の高い物流と働き方改革の実現に向け、取引先や物流事業者等の関係者との相互理解と協力のもとで、物流の改善に取り組みます。

（法令遵守への配慮）

法令違反が生じる恐れがある場合の契約内容や運送

内容の見直しに適切に対応するなど、取引先の物流事業者が労働関係法令・貨物自動車運送事業関係法令を遵守できるよう、必要な配慮を行います。

（契約内容の明確化・遵守）

運送および荷役、検品等の運送以外の役務に関する契約内容を明確化するとともに、取引先や物流事業者等の関係者の協力を得つつ、その遵守に努めます。

「ホワイト物流」推進運動とは？

トラック運転者不足が深刻になっていることに対応し、国民生活や産業活動に必要な物流を安定的に確保するとともに、経済の成長に役立つことを目的として、以下に取り組む運動です。

1. トラック輸送の生産性の向上・物流の効率化
2. 女性や60代以上も働きやすい、より「ホワイト」な労働環境の実現

出荷業務の改善

サンアロマーは、物流業界の労働環境改善として「ホワイト物流」に取り組んでいます。2023年は、協力会社の皆様の多大なるご協力のもと、下記の取り組みを実施しました。

取り組み項目	取り組み内容	2023年の実績
物流の改善提案と協力	取引先や物流事業者から、荷待ち時間や運転者の手作業での荷卸しの削減、附帯作業の合理化等について要請があった場合は、真摯に協議に応じるとともに、自らも積極的に改善案を提案します。	顧客構内での乗務員による荷下ろし作業削減または改善を目指し顧客構内荷役改善活動を進め、2023年は車上渡しへの変更13件を行いました。
予約受付システムの導入	川崎工場においてトラックの予約受付システムを導入し、荷待ち時間の短縮を進めています。 予約受付システムの流れ  制御室の待機場所状況を各運送会社へSNSで発信 運送会社のタブレットで待機場所の状況確認 運送会社は状況を把握し、当該指図のトラックは、他社倉庫へ向かうことを決定	予約受付システムの導入により、予約の簡素化と物流会社様とのコミュニケーションの円滑化が図られ、予約率が向上しました。あわせてトラック待機場の様子をリアルタイム配信することで、混雑時に隣接倉庫に積み込みにいく判断が可能となり、他倉庫も含めた荷待ち時間を低減することができました。 また、川崎工場内の倉庫の出荷作業開始時間変更による早出対応、昼休みの交代取得で出荷作業を継続、フォークリフトオペレーターへの構内環境整備によるコミュニケーションの円滑化を推進したことで、業務ピーク時間の平準化などに繋がりました。これらの取り組みにより、出荷効率が向上するとともに、荷待ち時間を従来平均113分から目標値である30分以内を達成することができました。今後も継続して低減に努めて行きます。
パレット等の活用	P.24「ランニング包材回収率の向上(パレット回収率98.5%の達成)」内の取り組みと実績内容をご覧ください。	
発荷主からの入出荷情報等の事前提供	決められたオーダーの締め切りを守り、受注情報を3PL業務委託先に流しています。	
運転以外の作業部分の分離	上段の取り組み項目の「物流の改善提案と協力」の顧客構内荷役の改善活動が該当します。	
発注量の平準化	輸入品倉庫での受入作業負荷平準化目的で、オーダー分散活動を実施しています。	受入作業を1日で完了出来なかったオーダーが、2020年は29件ありましたが、2021年/0件、2022年/0件、2023年/0件と大幅に改善し、オーダー分散活動の効果を確認できました。
運送契約の書面化の推進	特記事項はありませんでした。	
荷役作業時の安全対策	2023年は乗務員による自主荷役から車上渡しへの変更を13件行いました。	
異常気象時等の運行の中止・中断等	副原料・ワンウェイ包装材等の発注を行う際に、サプライヤーのトラック手配の都合により、数件の納期調整依頼があり、調整可能なものについて協力を行いました。	

安全セミナーの実施

サンアロマーでは、毎年7月の全国安全週間に合わせ、従業員向けの安全セミナーを実施しています。

今回は、2023年7月に安全講演会として、ノンテクニカルにおけるヒューマンエラーの防止には、睡眠の質が重要な1つの要素となることから、次の2つの講演を組み合わせました。

1回目は「人間の限界を知り安全を確保していくためのノンテクニカルスキルの高め方」を株式会社MOMO代表取締役社長 高橋澄子様と、2回目は「今日から変わる！仕事の成果を上げる睡眠マネジメント」をユークロニ

ア株式会社 代表取締役社長 菅原洋平様にそれぞれご講演いただきました。

内容は、人間の過ちのメカニズムとその解決法やコミュニケーションスキル向上に役立つ内容、業務を集中して行える最適な睡眠スタイルをつくることを目指す内容としました。

また、当日はライブ配信するとともに、後日録画配信し聴講してもらうことで、全従業員(派遣社員を含む)240名中/1回目240名、2回目211名が受講しました。

健康管理・メンタルヘルス

健康障害を防止し、快適な作業環境の形成を推進するとともに職場生活における心身両面の健康を保持・増進するため次のような取り組みを行っています。

ラジオ体操の実施

健康づくりのためにラジオ体操の実施を推奨し、本社、各事業所でラジオ体操を行っています。

メンタルヘルス対策

全社で法律に基づくストレスチェックを実施しています。集団分析結果に基づく職場改善対策について、各事業所の安全衛生委員会で検討、実施し、会社全体に及ぶ

改善については、本社の安全衛生委員会が主導して検討、実施しています。

インフルエンザ予防接種の推進

毎年、重症化リスクの軽減等のため、季節性インフルエンザの予防接種を実施しやすいように環境を整えています。

受動喫煙防止対策

2020年4月1日より改正健康増進法が施行され、設置基準に準拠した専用喫煙室および屋外喫煙所の運用を開始しております。また、サンアロマーでは禁煙計画を作成し、禁煙希望者への禁煙支援やポスター等による禁

煙の推進、2022年4月からは「就業時間中禁煙」のテスト運用を開始しました。尚、「就業時間中禁煙」は2023年4月から正規運用として継続しております。

女性従業員の働く環境の改善

大分工場では、近年女性従業員が増加傾向にあります。しかし、製造現場に専用施設がなかったことから、

2020年に女性用更衣室と女性用トイレを設置するなど、女性従業員の働く環境の改善に努めています。

BCP(事業継続計画)の取り組み



サンアロマーでは、定期的にBCPの危機対応訓練を行っています。

新型コロナウイルス感染症への対応

サンアロマーは、新型コロナウイルス感染症(COVID-19)感染拡大およびこれに伴う緊急事態宣言の発令の下、サンアロマーのBCP(Business Continuity Plan:事業継続計画)手順に基づき、対策本部を設置し、様々な対応を行っております。

特に大分・川崎両工場では、生産設備を24時間連続して運転しており、作業や保安等での人の出入りも多く、人数を減らしての業務遂行は難しいため、最大限の感染予防対策を実施し、工場の安全・安定稼働と従業員の健康を守りながらの製造が続けられています。また、2021

年は職域接種にも参加し、いち早く従業員のワクチン接種に取り組みました。その他事業所においても最大限の感染予防対策を実施し、業務を継続しております。(2023年5月～段階的に予防対策を緩和しています。)

サンアロマー製品はマスクや衛生製品に使用される不織布用途にも用いられています。すべてのお客様へ安定した製品供給できるように、各協力会社の皆様とともに全力を挙げて感染対策、事業の継続に取り組んでいます。

大分工場



【入室制限に伴う、協力会社からの書類入れ設置の様子】



【非接触による交替勤務者との打ち合わせの様子】



【居室内アクリルパーテーション設置の様子】

川崎工場



【入室時の距離を保った消毒の様子】



【使用後の共有保護具の除菌の様子】



【マスク着用の他にヘルメットに収納できるフェイスシールド活用の様子】

情報公開対応訓練

BCP訓練の一つで企業のクライシス(災害、不祥事)が発生した際の情報公開対応の訓練を定期的に行っています。ステークホルダーへ誤ったイメージを与えないため

に速やかに適切な情報公開ができるように工場での大規模災害が発生した想定で模擬訓練などを行いました。

総合防災訓練

2023年12月に本社災害対策本部訓練を本社機能喪失を想定し、災害対策本部を大分工場に設置した訓練を実施しました。

2019年までの本社災害対策本部訓練は、本社での災害を想定し本社単独で実施しておりましたが、2020年からは他事業所と連携し実施しております。2023年は現状の災害対策本部の設置、および連絡訓練体制等の問題点の抽出を行いました。

訓練当日は、最大深度7の首都圏直下型大規模地震が発生したことを想定し、社長は海外出張中、副社長が被

災し、本社、川崎工場、研究開発本部との連絡がとれない状況化において、災害対策本部を大分工場に設置し、その指揮下のもと、基幹システムDRサイトへの切り替え訓練と、名古屋事業所と大阪支店にて受注・出荷業務停止訓練を行いました。

今回は、受注・出荷業務を他事業所で行うことで、より実践的な訓練となりました。訓練で確認された課題の是正を実施し、次回の訓練に反映していきたいと考えています。

品質に関する基本方針

品質に関する基本方針

1. 品質は、サンアロマーの事業においての本質であり、その継続的改善を通じてお客様の信頼を得る。
2. 品質の尺度は、サンアロマーの提供する製品およびサービスに対するお客様の満足であり、お客様のニーズに合致していなければならない。
3. 品質の管理は、製品の開発から、原材料の管理、製造、販売、物流を含めた全ての事業活動に亘るものである。

サンアロマーは、この方針のもとで品質マネジメントの有効性を継続的に改善する。

品質保証

社長のトップメッセージにもある通り、サンアロマーは「品質に対して真摯に取り組み、情熱をもって挑戦をしていきます」とある通り、企業活動の基軸として品質管理体制の向上に取り組み、お客様の期待に応える安定した品質とサービスの提供を目指しています。

そのために、品質に関する基本方針として品質をサンアロマーの事業においての本質と据え、お客様の満足が品質の尺度と考えると、製造本部、品質保証室だけでなく全社の関係部門が連携して、品質のさらなる安定と向上に向けて継続的に改善に取り組んでおります。

製品品質管理

品質保証体制

サンアロマーでは、品質の管理が全ての事業活動に亘るとの方針に基づいて、ISO9001:2015の認証を、工場のみならず研究開発本部や営業本部なども含めた全社で取得しております。

毎年、品質だけでなく全社マネジメントシステムの中でマネジメントレビューが実施され、品質方針、目標に対してのアウトプットが示されます。このアウトプットにより事業活動と一体となった次目標が立てられて、継続的な改

善が進められます。

また、サンアロマーはレゾナックグループの一員として、グループ内の品質に関する教育訓練を受講しております。2023年11月の品質月間には、ヒューマンエラーとこれに起因するトラブルを防止するための指針や考え方についてeラーニング受講や資料の熟読をし、全従業員が参加し、品質に関する知識やスキルの向上に取り組んでいます。

品質保証・管理の取組み

サンアロマーでは、お客様の使用用途や使用分野に応じた製品リスクを分析し、それらに適した評価・管理を行い、お客様に安心してサンアロマー製品を使用していただけよう努めております。

安定した品質とサービスを提供できるよう、今後も引

き続き、継続的改善と適切なリスク管理を行うことで、お客様のニーズに応じた品質管理を推進していきます。

製品試験成績表は、希望されるお客様に対して、出荷時にPDFファイルでメール送信しております。また、ご希望によってはFAXでの送信を行っています。

品質データ管理システム

品質保証および製品開発の試験データを自動的に取り込む「品質データ管理システム」を導入しています。これにより、物性測定データの誤転記、入力ミス、データ改ざんの防止を含む品質問題リスクの低減も図られ、また基礎データの収集の効率化により製品開発における物

性予測の精度の向上が可能となりました。これらは、より良い製品のご提供を目指し実施しているものです。

また、ペレット外観検査装置を大分・川崎両工場に導入するなど、人手に依存しない再現性の高い測定方法も追求しております。

製品安全管理

近年の化学物質管理への要求の高まりから、サンアロマー製品に対してもお客様から環境負荷物質の含有や法規適合性についてのお問い合わせが増加しております。

サンアロマーでは製品ごとに安全性と取り扱い方法等の情報を記載したSafety Data Sheet(SDS)と、国内外の法規適合性(化審法、労働安全衛生法、各国インベントリー登録、欧州REACH、など)や含有化学物質等の情報を記載したProduct Stewardship Bulletin(PSB)を準備し、サンアロマーのホームページにこれらの情報を公開しております。また、お客様ごとにご要望内容が異なるグリーン調達へのお問い合わせにも、個別に対応しております。

サンアロマーは、経済産業省が開発した、サプライチェーンにおける、新たな製品含有化学物質情報の伝達

スキームである「chemSHERPA」(ケムシェルパ)に当初から賛同し、アーティクルマネジメント推

進協議会(JAMP)におけるMSDSplusからchemSHERPAへの移行については、完全移行時期(2018年4月)に先駆けて完了しております。

今後も引き続き、化学物質に関する国内外の法規制の変更やお客様の動向を注視して、環境・安全・健康・法令遵守・お客様のニーズを考慮した製品安全管理を推進していきます。

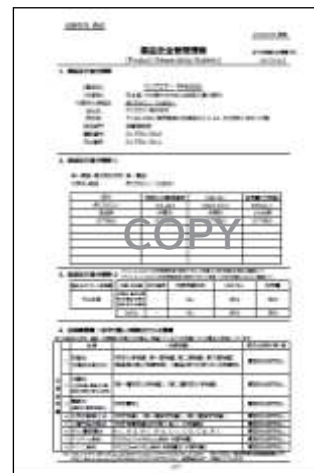
TOPICS

製品安全管理の説明会の実施

様々な法規適合性、環境負荷物質の含有などの化学物質管理について、お客様でもあるパートナーの皆様へ説明を行いました。



サンアロマー製品のSDSサンプル



サンアロマー製品のPSBサンプル

取り扱い化学物質の管理

サンアロマーで扱う化学物質については、サプライヤーからSDSを入手し、安全性評価を実施し、適正に管理しています。また事業所内で取り扱う際のリスク評価

を実施し、リスク低減のための必要な対策を講じ、作業者の安全を確保しています。

PRTR対象物質の管理

サンアロマーで取り扱っている化学物質のうち、数種類がPRTR法で定められた対象物質に該当します。対象物質については排出量・移動量のマテリアルバランスを把握しています。このうちノルマルヘキサンは法改正で2010年の使用分から報告義務対象物質となり、新たに

報告を行っています。他の物質は取扱量が少なく(1トン未満)、報告対象外でした。

PRTR法とは？

有害性の恐れのある化学物質が、環境(大気・水・土壌)に排出された量および、廃棄物に含まれて事業所外に運び出された量を把握・集計・公表する仕組みのこと。

化学物質管理システム

近年、化学物質の問い合わせおよび関連法規の改定が増加しており、化学物質管理システムの導入を含めて、化学物質管理基盤の構築が急務となっています。

2019年に実施した社内調査では、社内のデータ一元化、ヒューマンエラー防止、効率化、法令改正時の迅速な対応に関する改善が必要であることがわかり、その解決

策として、化学物質管理システムを導入することが決まりました。その後、関係部署と連携しながら2020年2月に導入プロジェクトを立上げ、2021年から化学物質管理システムの運用を開始しました。これにより、関連法規改定において、迅速且つ正確な情報提供を行っています。

品質診断の受審

品質保証の仕組みについて、毎年、株式会社レゾナック品質診断を受審しています。診断の結果は良好であ

り、品質に対しての取り組みが評価されました。

コンプレイン事例集発行による品質レベルの向上

クレーム・コンプレインの再発防止とお客様満足度およびCX(Customer Experienceの略で「顧客体験価値」のこと)向上を目的とした社内教育教材として「コンプレイン事例集」を編纂しました。

この事例集では、各コンプレイン事例について技術的な背景まで分かりやすく明確に解説しており、再発防止対策の妥当性確認や予防対策に非常に有効で、コンプレイン発生減少や、不適合製品発生防止に役立つものです。本事例集については、2020年のレゾナックグループ

の品質保証責任者会議でベストプラクティスとして取り上げられた他、ISO9001品質マネジメントシステムの第三者監査審査においても他社では見られない取り組み充実点として評価されています。

現在、社内関係部門の教育資料としても活用されており、この事例内容を理解することにより、優れた製品・サービスを提供し、お客様の満足度の向上を目指しています。

品質クレーム件数

2023年のサンアロマー基準による品質クレームの発生はありませんでした。

ここ数年は低水準で推移しているものの、品質に対するお客様の要求も年々高まっていることから、今後CXの観点を取り入れると共に、新たな制御システムや自動検知設備の導入を進めて品質不良の発生防止、流出防

止を図り、品質クレーム発生ゼロを目指します。

品質は、サンアロマーの事業活動においての本質であり、その継続的な改善を通じて、お客様をはじめ、全てのステークホルダーの皆様の信頼が得られるよう、今後もこのような活動を継続して取り組んでいきます。

取引先とのかわり



サンアロマーの事業活動に関わるパートナー

サンアロマーでは、製品開発から原材料、製造、販売、物流を含めた様々な事業活動に関わるパートナー会社・パートナーの皆様とともに事業活動を行っています。

サンアロマーは、これからも全てのパートナーの皆様とともにお客様のもとへ製品をお届けしていきます。

CSR調達

サンアロマーは、レゾナックグループの一員として、経営理念のもと誠実に行動し、事業活動を通じて社会に貢献することを目指しています。2018年に「レゾナックグループサステナブル調達ガイドライン」を基にしたCSR調達活動を計画し、2019年から活動を開始しています。

供給者監査は2005年より調達部門が実施しており、その内容は、サプライヤーの工場を訪問し、調達部門の視点で品質や購入品の安定供給等に関する確認を実施するもので、2023年は供給者監査(現地監査)を1件実施しました。

また、2019年からはCSR調達の取り組みとして、供給者監査を実施する前にサプライヤーへCSR質問票を

送付・御回答頂き、その上で供給者監査時にCSR質問票やCSRへの取り組み状況などについて質疑応答を行い、確認・改善のテーマが見つかった場合には協働で改善に取り組む活動も実施しております。

2023年は、供給者監査とは別にサプライヤー8社に対してCSR調達質問票を送付し、ご回答をいただいた後、Web面談等のヒアリングを実施しました。



【CSR質問票のサンプル】

紛争鉱物への取り組み

コンゴおよび隣接する国々で採掘される鉱物(スズ、タンタル、タングステン、金)は、これを購入することで現地の武装勢力の資金調達につながり、結果として地域の紛争に加担し、人権侵害、環境破壊を引き起こしているとして国際的に大きな問題となっています。株式会社レゾナックでは、責任ある鉱物イニシアチブRMI (Responsible Minerals Initiative)に賛同しており、レゾナックグループの一員であるサンアロマーもこの考えに準拠し、RMIで認証された製錬所に限った鉱物調達を調達先(パートナー)の皆様へ推奨する共に、調達先の皆様のご協力を得て、毎年調査を行い、紛争鉱物を含有していないことを確認しています。

また、「レゾナックグループ サステナブル調達ガイドライン」においても「コンフリクトフリー(紛争に関わらない)

鉱物の調達におけるサプライチェーンの透明性を向上させ、責任ある材料、部品の調達を実践しなくてはなりません。」と記載されており、調達先に対してこれらを購入・使用しない取り組みを進めています。

昨今の「責任ある鉱物調達」に対する社会動向も踏まえ、上記4鉱物に加えて、コバルトとマイカ(天然雲母)についても同様の取り組みを行っています。



【Conflict Mineral Reporting Templateのサンプル】

人権の尊重

株式会社レゾナックは、国連グローバル・コンパクトが定める「人権の保護」、「不当な労働の排除」、「環境への対応」、「腐敗の防止」に関わる4分野10原則に賛同しています。「レゾナックグループ 人権方針」においても事業活動を通じて社会課題の解決に貢献していくことが定め

られております。

レゾナックグループであるサンアロマーにおいても、この原則、方針に準拠し、事業活動のあらゆる局面において人権を尊重するとともに、人権への負の影響の防止に努めています。

人権教育

サンアロマーでは、共により良い社会をつくっていくビジネスパートナーやお客様、地域社会からの信頼を得るために、サンアロマー従業員一人ひとりが人権を尊重した行動がとれるように、全従業員に研修を通じた社内浸透を図っています。

サンアロマーは、2015年から外部講師による「企業に求められる人権」や、法務省の「主な人権課題16項目」を網羅する研修により社内浸透を図ってまいりました。

2020年からは、レゾナックグループとして誰一人取

り残されることなく、全ての人の尊厳が確保され、誰もが等しく尊重される社会の実現のために、事業を展開するあらゆる地域において、事業活動の根幹として人権を尊重を意識し、以下の研修に参加しています。研修に参加できなかった従業員においては、後日自習および課題を実施することにより、全従業員への教育を完了しています。

今後も全社教育を行い、人権尊重の意識の向上に努めていきます。

- ・2021年 「私たちの行動規範」に基づき、「レゾナックグループ 人権方針」を策定し、その浸透を図る研修
- ・2022年 「私たちの行動規範」に人権方針を反映し、その浸透を図る研修
- ・2023年 「従業員アセスメント」実施と「ビジネスと人権」研修

健康経営宣言

サンアロマーで働く従業員とその家族の心身の健康が経営の重要な基盤と考え、「従業員を元気にする！」を目標に働きやすく、働きがいのある環境を整備し、健康管理体制を構築します。また疾病の予防や改善にとどまらず、レゾナックグループの一員として、従業員の健康意識（ヘルスリテラシー）の向上を目指します。

具体的な取り組みとして、定期健康診断、婦人科がん検診、家族の生活習慣病健診、専門ドックの受診環境を整え、従業員自ら健康に取り組み、自身ができるKPIを設定し達成するなど、健康意識を高められるよう、促進し

ています。

また、メンタルヘルスに関する相談窓口を定期的に周知し、安心して相談できる環境を整備しています。2019年度にレゾナックグループ「元気度調査」を行い、この結果を受け、2021年からレゾナックグループと一体となって「健康保持・増進プラン」を推進し、全従業員は個別に設定した目標の達成に取り組みました。2021年の目標達成率は70%、2022年は64%、2023年は66%となり、2024年度も引き続き実施していきます。

健康経営優良法人2024(中小規模法人部門)に認定されました！



サンアロマーは、経済産業省と日本健康会議が認定を行う「健康経営優良法人認定制度」において、「健康経営優良法人2024(中小規模法人部門)」に2年連続で認定されました。

サンアロマーは、社員とその家族

の心身の健康に配慮した健康経営に取り組みます。このたびの認定を踏まえ、レゾナックグループの一員として、これからもヘルスリテラシーの向上を図っていきます。

「健康経営優良法人認定制度」とは？

地域の健康課題に即した取組や日本健康会議が進める健康増進の取組をもとに、特に優良な健康経営を実践している大企業や中小企業等の法人を顕彰する制度です。

従業員エンゲージメント調査実施

2023年に従業員エンゲージメントに関する調査を実施しました。本調査は、2017年に実施した「働きがい調査」と同様に、従業員のエンゲージメントを測り、今後の組織運営につなげていくことを目的とし、レゾナックグ

ループの一員として実施しました。

この結果を受けて、本部毎に課題の抽出とその対策を行っております。

人材育成

研修体制として、全社教育を計画的に実施しております。例えば、全従業員が参加する品質教育、コンプライア

ンス教育、次世代育成プログラム、自己啓発として、e-ラーニング、通信教育、語学補助などを行っています。

働き方改革への取り組み

サンアロマーでは「柔軟でメリハリのある効率的な働き方をより一層可能とする」とともに、「多様化する従業員の生活上のニーズに応える」ため、コアタイムなしのフ

レックスタイム制の導入と、在宅勤務制度をより活用しやすくする運用を実施しています。

＜仕事と家庭の両立支援＞

法定を上回る制度や、フレックスタイム、テレワーク等の柔軟な働き方に資する制度、積立休暇利用制度（私傷病、介護、子の学校行事、臨時休校、特定不妊治療、他）等を整備しています。

サンアロマー株式会社行動計画(第3期)

1、計画期間2021年7月1日～2025年12月31日

《目標1》

<対策>

2022年1月～ 社内報、イントラネットへの掲示による従業員への周知

《目標2》

<対策>

2023年1月～ 社内報、イントラネットへの掲示による従業員への周知

《目標3》

<対策>

2024年1月～ 社内報、イントラネットへの掲示による従業員への周知

サンアロマーでは、2009年に

多様な働き方の選択肢の一つとして、また、働きがいの向上に向けた取り組みを推進するため、従来の在宅勤務制度からさらに対象者、就業場所、日数などを拡大したテレワーク規程を整備いたしました。

サンアロマーは今後もテレワークの活用を一層進めることによって、従業員一人ひとりがやりがいや充実感を持ちながら働き、多様な働き方が実現できる環境づくり、仕組みづくりに取り組んで参ります。

「テレワーク先駆者百選」とは？

SUNALLOMER CSR REPORT 2024 49

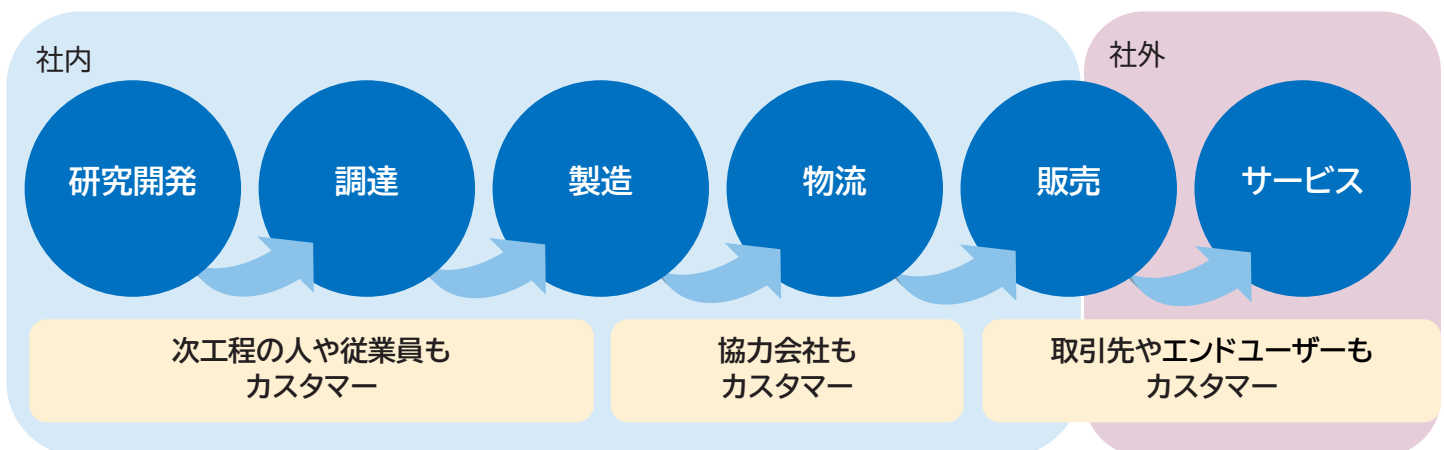
CX活動

CXとは、Customer Experienceの略で、「顧客経験価値」や「顧客体験価値」という概念で用いられています。

サンアロマーでは、このCXの最大化を目指しており、一人ひとりが自分自身のお客様(= Customer)に対して、より良いサービスを提供し、「あなたに頼んでよかった！」と思う経験(= Experience)をしていただくことで、次回もあなたに頼みたいと思われるような関係を築き、お客様から選んでいただける企業を目指しています。また、CXにおける「Customer」は社内外のどちらにも存在しており、全従業員がCXを意識し業務を行うことで、企業全体としてのサービス向上になり、それが最終的に会社の利益へとつながり、全ステークホルダーへ還元されることを期待しています。

2020年から社内周知活動を開始し、動画視聴や職場内ディスカッション、全従業員を対象としたオンライン研修などを実施し、従業員のCX最大化理解を深める教育活動を行っています。

また、レゾナックグループの2023年度の「AHA! (Awards of Harmony, アハ!)2023」では、総エントリー約900件、延べ約11,000人の中から、当社からエントリーした「廃プラのリサイクル化及び回収率向上」(環境負荷低減)が「銀賞」を受賞しました。これは、当社の業務課題に対して日々の改善を継続的行ったことで、カスタマーのカスタマーにまで提供価値が波及し、社会課題の解決にも寄与している点が高く評価されたものです。今後もCX最大化を目指して引き続き活動を行っていきます。



会社情報

会社情報

会社概要

社名	サンアロマー株式会社	従業員数	約220名
英文社名	SunAllomer Ltd.	年間売上	715億円(2023年実績)
設立	1999年6月1日	生産能力	408,000T/年
本社所在地	〒140-0002 東京都品川区東品川二丁目2番24号 (天王洲セントラルタワー27階)	役員	代表取締役社長 高岡 博
資本金	62億円		代表取締役副社長 杉本 伸之
代表者	代表取締役社長 高岡 博		取締役(常勤) 正木 徹
事業内容	合成樹脂の製造・加工及び販売		取締役 福田 浩嗣
決算日	12月31日		取締役 橋田 裕一
株主	株式会社レゾナック ENEOS株式会社		取締役 忍田 泰彦
			監査役(常勤) 加藤 秀康
			監査役 竹内 清和
		監査役 島田 武浩	
		(2024年4月1日現在)	

沿革

1955年	日本石油(株)の全額出資により、日本石油化学(株)設立、石油化学事業に進出
1957年	昭和電工(株)、石油化学事業に進出 日本石油化学(株)エチレン設備完成、川崎コンビナート操業開始
1969年	昭和電工(株)大分石油化学コンビナート竣工、12月ポリプロピレン設備完成、操業開始
1989年	日本石油化学(株)コンビナートにUPP(浮島ポリプロ(株))のポリプロピレン設備完成
1993年	昭和電工(株)大分・気相法ポリプロピレン 設備完成
1995年	JPO(日本ポリオレフィン(株))設立、昭和電工(株)・日本石油化学(株)から事業譲渡
1996年	JPOとMontell(現LyondellBasell)が共同でMJC(モンテル・ジェイピーオー(株))設立、JPOからMJCに自動車用途ポリプロピレン事業を譲渡
1999年	MSS(モンテル・エスディーケー・サンライズ(株))設立、JPOからポリプロピレン事業を譲渡
2000年	大林産業(株)と共同で韓国にポリレイ社設立
2001年	MSSからサンアロマー(株)へ社名変更
2002年	サンアロマー(株)が日本石油化学(株)からUPP(浮島ポリプロ(株))株式を全株譲渡
2007年	UPPを解散し、サンアロマー(株)に事業譲渡
2010年	生産能力を約6万トン増強、新プロセス技術の導入
2016年	LyondellBasellが保有する全株式を昭和電工(株)(現(株)レゾナック)とJXエネルギー(株)(現 ENEOS(株))が取得

サンアロマー所在地



所在地一覧

本社	〒140-0002 東京都品川区東品川二丁目2番24号 天王洲セントラルタワー27階 電話:03(5781)5608 FAX:03(5781)5611
大阪支店	〒532-0003 大阪府大阪市淀川区宮原四丁目5番41号 新大阪第2NKビル9階 電話:06(7662)2651 FAX:06(7662)2652
名古屋事務所	〒451-0045 名古屋市西区名駅一丁目1番17号 名駅ダイヤメイテツビル12階 電話:052(583)0345 FAX:052(583)0325
研究開発本部	〒210-0863 川崎市川崎区夜光二丁目3番2号 ENEOS株式会社 川崎製油所 川崎地区(塩浜)内 電話:044(276)3562 FAX:044(266)9432
川崎工場	〒210-0865 川崎市川崎区千鳥町13番1号 ENEOS株式会社 川崎製油所 川崎地区(千鳥)内 電話:044(276)3675 FAX:044(276)3560
大分工場	〒870-0111 大分県大分市大字中ノ洲2番地 大分石油化学コンビナート内 電話:097(521)5125 FAX:097(521)5071

組織図



財務・非財務データ

財務データ

財務データ	2019年	2020年	2021年	2022年	2023年
資本金	62億円	62億円	62億円	62億円	62億円
決算日	12月31日	12月31日	12月31日	12月31日	12月31日
年間売上	590億円	486億円	574億円	731億円	715 億円
生産能力	408,000T/年	408,000T/年	408,000T/年	408,000T/年	408,000T/年

非財務データ

環境		2019年	2020年	2021年	2022年	2023年
GHG排出量(千t) ^{※1}		82	79	80	75	71
エネルギー消費量 ^{※1 ※2}	総消費量(千GJ)	1,644	1,566	1,597	1,582	1,360
	電力における再生可能エネルギー割合(%)	—	—	—	—	14.1
CO ₂ 排出量 ^{※1}	Scope1の総排出量(千t-CO ₂)	0	0	0	0	0
	Scope2の総排出量(千t-CO ₂)	82	79	80	75	71
PRTR法対象物質の総排出量 ^{※1} (t)		148.6	77.0	6.7	42.5	5.6
VOC排出量 ^{※1} (t)		209.8	125.3	8.8	68.1	6.7
水の総消費量	水使用量(千m ³)	617.5	533.8	535.8	545.6	538.8
	排水量(千m ³)	626.0	571.8	595.8	545.2	564.6
	循環冷却水使用量(千m ³)	43,914	40,349	43,806	25,618	27,502
産業廃棄物発生量	有害(特定有害産業廃棄物)(t)	—	—	0.00	0.00	0.36
	非有害(t)	—	—	209	210	149
	回収再利用(t)	—	—	209	208	144
産業廃棄物最終埋立処分率(%)		0.07	0.00	0.00	0.01	0.04
廃プラスチック有効利用率(%)		99.5	99.1	99.2	99.2	99.0
環境投資金額(百万円)		4.3	143.3	0.0	9.4	9.9

※1 各年4月から翌年3月のデータです。

※2 2023年実績からは改正省エネ法の基準に従い算出した結果となります。

非財務データ

労働と人権		2019年	2020年	2021年	2022年	2023年
労働災害 インシデント (従業員,常駐・非常 駐協力会社員)	件数(不休以上)(件)	1	0	0	1	3
	全度数率	1.22	0.00	0.00	1.03	3.65
	強度率	0.01	0.00	0.00	0.00	0.02
	損失日数	11	0	0	0	19
従業員数(人)		210	217	222	225	232
管理職に占める女性労働者の割合※注)(%)		—	—	—	—	10.4
男性労働者の育児休業取得率(%) (正社員)		—	—	—	—	67
人権に関する研修を受けた従業員の割合(%)		100	100	100	100	100
倫理		2019年	2020年	2021年	2022年	2023年
倫理に関する研修を受けた従業員の割合(%)		100	100	100	100	100
内部通報に関する件数		0	0	0	0	1
情報セキュリティインシデント(件)		0	0	0	0	0
持続可能な資材調達		2019年	2020年	2021年	2022年	2023年
紛争鉱物の情報(CMRT、EMRT)入手率(%)		100	100	100	100	100
その他		2019年	2020年	2021年	2022年	2023年
品質クレーム件数(サンアロマー基準)(件)		1	1	0	1	0

※注) 1 女性活躍推進法および育児・介護休業法に基づく情報公表を行っていない指標については「—」と記載しております。

2 女性活躍推進法の規定に基づき算出したものであります。

3 管理職に占める女性労働者の割合は2023年11月時点の実績です。



SunAllomer Ltd.

サンアロマー株式会社

東京都品川区東品川二丁目2番24号

天王洲セントラルタワー 27階

〒140-0002

<https://www.sunallomer.co.jp/>

お問い合わせ先

CSR本部 環境安全・CSR推進室

TEL 03-5781-5617

FAX 03-5781-5611